

六日及十日 伊藤喜三郎 田中督次郎

七日及十一日 石田音吉 白山茂兵衛

九日及十二日 松盛徳三郎 錦光山宗兵衛

其他接待部ニモ各々分擔ヲ定メタリ

當日參拜ノ順序ヲ定ムル左ノ如シ

十一月六日 舊第一社 人員一萬三千六百三十二人

同日 同日 同第二社 人員七千七百九十三人

同日 九日 同第三社 人員一萬三千四百三十五人

同日 十日 同第四社 人員一萬千四百人

同日 十一日 同第五社 人員一萬六千九百二十八人

同日 十二日 同第六社 人員一萬二千二百六十四人

當日參拜者心得左ノ如シ

一參拜時間ハ午前九時ヨリ午後三時マテトス

一受附ハ應天門ニ設ケ參拜者ハ同所ニ於テ層盃證ノ檢閲ヲ受ケル事

一休憩所ハ龍尾壇下ナル東西ノ榭舎ヲ以テ之ニ充ツ

一參拜者ハ混雜ヲ防ク爲メ休憩所ニ待合セ一組ツ、昇殿セシムルコト其時ハ  
擊柝ヲ以テ之ヲ報ス

一參拜者昇殿ノ時ハ蒼龍樓下ノ假階ニテ履物ヲ脱シ係員ニ預ケ東步廊ヲ經テ  
大極殿上ニ進ミ拜禮スル事

一紀念盃ハ西步廊ノ南面セシ處ニ委員出張シ層盃證ト引替ヘニテ參拜者ニ與  
ヘ其西手ニ於テ錫ト神酒ヲ授クル事

一右畢レハ白虎樓下ノ假階ヨリ漸次下向スル事

一當日參拜者戶主ニ限ラス代人ニテモ層盃證ヲ所有スレハ差支ヘナク又數人  
ノ委託ヲ受ケ參拜スルモ層盃證引替ニ數人分モ受取ルコトヲ得ヘキ事

一參拜者ハ必ス羽織袴又ハ羽織若クハ袴ヲ着用スル事

一當日徽章又ハ層盃證協賛會勸盃證ヲ携帯セサル者ハ龍尾壇ヲ昇降スル事ヲ  
許サ、ル事

此日門内ノ出入ヲ嚴ニシ受附所ヲ應天門ニ設ケ委員參與員上下京區長書記等此  
ニ出張シ參拜者ノ携帯セル層盃證ヲ檢シ門内ニ入ラシム參拜者ハ西龍尾壇ヨリ  
入り東蒼龍樓ノ假階ヨリ東步廊ヲ經テ大極殿ニ昇リ拜禮ヲナシ西步廊南面ニ於

テ贈盃證ヲ呈シ贈盃ヲ受ケ同廳東面ニ於テ神酒ヲ飲ミ賜ヲ受ケ白虎樓ノ假階ヨリ西門ヲ經テ下向セシム連日數千ノ參拜人ニテ一時神社境内立錫ノ地ナキニ至リ非常ノ熱鬧ヲ極メタリ

### 紀念祭場外ノ景況

紀念祭典既ニ延期ニ決シ勸業博覽會既ニ閉場ト爲リ新涼郊墟ニ入ルノ候ニ及ヒ一時熱鬧ヲ極メシ京都モ頓ニ寂寥ヲ感セシモ十月紀念祭典ノ時ニ至リ大祭ノ盛儀ニ續キ時代行列ノ壯觀アリ高齢者及各戶主ノ勸杯アリ時ハ恰モ小春ノ候ニ際シ寒暄中ヲ得テ菊花楓葉ノ好風光アリ各社寺ニハ再ヒ祭典法會寶物展覧ノ施行アリ元美術館ニハ新古美術品展覧會アリ元勸業博覽會工業館中ニハ五二會品評大會アリ御苑内博覽會場ニハ青年繪畫展覧會アリ全國士民ハ此ノ千載一時ノ大儀ヲ拜シ並ニ京都ノ盛況ヲ觀ントシ四方先ヲ爭ヒ都下ニ雲合霧集シ京都ハ再ヒ前日ノ盛況ヲ見ルニ至レリ市内各戶ハ帷幕ヲ張リ祝旗ヲ掲ケ神燈ヲ照シ粧飾ヲ盡クシ至ラサル所無ク各町ニ種々ノ餘興ヲ催シ唯後レノコトヲ恐ル大祭將ニ終ラントスルヤ各遊廓ヲ始メ市民ハ紀念踊リト稱シ屋臺ヲ挽キ行列ヲ爲シ老幼男

婦彩衣ヲ着ケ粉粧ヲ施シ燈ヲ張リ樂ヲ奏シ平安神宮ニ參拜シ市内ヲ舞踏シ夜ヲ徹シテ歸ルヲ忘ル此ノ如キモノ數晝夜滿都狂ノ如ク亦未曾有ノ盛況ナリシ

第五章 紀念式

紀念式ト稱スル事ハ我國近代迄ハ未タ聞カサル所ナリシカ近年始メテ行ハレタ  
 リ舊ナ懷ヒ源ヲ尋テ永ク忘レサルヲ旨トスル最モ緊要ノ式ト謂フヘシ況ンヤ  
 我平安京遷都千百年紀念祭ハ其事最モ重大ニシテ皇室ニ關シ帝都ニ係レルヲヤ  
 故ニ發起以來其事ニ關スルモノハ論ナク苟モ此舉ヲ贊スルモノ相共ニ心ヲ竭シ  
 カテ致シコトナ計畫セリ紀念式ハ紀念祭トハ自カラ別ニシテ紀念祭ハ專ラ桓武  
 天皇ヲ奉祭シ其盛徳ヲ顯シ洪恩ニ報ユルニ在リ紀念式ハ上下相會シ以テ千百年  
 ノ名京ヲ祝シ仰テ延曆ノ洪謨ヲ飲シ近ク明治ノ昭代ヲ慶シ以テ益々此京ノ隆盛  
 ナ祈ルニ在リ故ニ已ニ紀念祭ヲ終リ其後紀念式ヲ執行スルコトトセリ紀念式ニ  
 ハ上ハ車駕御臨幸ヲ請願シ且皇族御臨場ヲ請ヒ奉リ各大臣其他貴顯紳士ヲ請待  
 シ以テ大盛典ヲ行フヲ以テ其次第及ヒ敷設等最モ心ヲ用キタリ式ハ大極殿上ニ  
 於テ行フコトトシ臨御ノ便殿ヲ大極殿東步廊ノ北位東臨門内ニ設ク便殿ノ裝飾  
 ハ都ヲ主殿寮出張所ユリ屬官出張シテ前以テ其設備ヲナセリ薙道ヲ東龍尾壇ヨ  
 リ東臨門ノ階下ニ設ク以テ御道ト爲ス其他ノ裝飾渾テ祭式ノ時ニ同シ此日大勳

位晃親王ニ勅命アリテ御名代トシテ臨御アリ午前十時二十五分親王儀衛ヲ備ヘ  
慶流橋ヨリ菴博覽會正門大通ヲ過キ應天門ノ東ヨリ東ノ龍尾壇下ニ御著アリ府  
知事御先導シテ東福門ノ階ヨリ便殿ニ御著アリ市參事會員市會議長紀念祭委員  
及協贊會長同副長幹事ハ龍尾壇ニ奉迎シ參列員ハ廊前ニテ敬禮ス皇族親任官同  
待遇者ハ殿ノ東廂ニ著キ外國公使ハ同西廂ニ著ク高等官同待遇者兩院議員府會  
議員諸會社長ハ東步廊ニ著キ西面北上ス外國來賓協贊會幹事評議員委員ハ西步  
廊ニ著キ東面北上ス市參事會員市會議員紀念祭委員ハ西步廊ニ著ケリ既ニシテ  
軍樂隊ノ奏樂興ル府知事ハ御先導ヲナシ樂聲ニ伴ヒ殿ノ中央ニ設ケシ玉座ニ御  
著アリ樂罷ム府知事進メテ奏上文ヲ上ル曰ク

京都市參事會京都府知事從三位勳二等臣山田信道誠惶誠恐謹奏ス惟明治二  
十有八年即チ紀元二千五百五十五年ハ

桓武天皇此平安京ヲ建奠シ初メテ大極殿ニ御シ正朔ノ朝賀ヲ受ケ給ヒシヨリ  
實ニ一千一百年ニ相當スルヲ以テ我京都市民ハ聖德ヲ欽仰シ鴻恩ヲ追慕シ平  
安遷都ノ日ニ當リ紀念大祭ヲ行フ事ヲ議決シ仰ヒテ  
車駕ノ臨幸ヲ請願シ乃チ之カ經進ヲ爲シ之カ準備ヲ作シ本日ヲ以テ爰ニ其式

ヲ舉行セリ恭ク惟ルニ

桓武天皇英毅雄邁剛明濟哲天業ヲ經綸シ鴻圖ヲ懷弘シ外ハ蕃族ヲ攘斥シ以テ  
大ニ疆土ヲ開拓シ内ハ皇京ヲ建奠シ以テ益々洪基ヲ鞏固ニス文勳前ニ輝キ武  
德後ヲ照ラシ山岳ト俱ニ高ク日月ト同シク炳クナリ平安ノ佳名一タヒ定マリ  
襟帶山河形勝居然皇宮森鬱寢廟殿翼四神ノ護スル所萬方ノ歸スル所以テ一千  
百年ノ久ヲ經是實ニ天壤無窮ナル我國體ノ然ラシムル所ニシテ

桓武天皇ノ鴻烈今ニ至リテ益々高シ我國民タルモノ豈此光輝ヲ發揚シ此盛德ヲ  
顯章スル所以ヲ思ハサルヘケンヤ況ヤ京都市民カ世々此地ニ住シ親シク其澤  
ヲ被ルニ於テチヤ是レ此紀念祭ヲ行ヒ無前ノ盛典ヲ舉ントスル所以ナリ伏シ  
テ惟ルニ

天皇陛下乃聖乃神允文允武 祖宗ノ大訓ニ遵ヒ中興ノ偉業ヲ建テ乾綱一タヒ  
振ヒ百度俱ニ舉リ復古ノ基益々固ク維新ノ化日ニ洽ク大憲既ニ定リ上下慶ヲ同  
クシ天聲加ハル所海外截タルアリ 聖德鴻烈直ニ武ヲ 桓武天皇ニ接シ給フ  
於慶盛矣哉乃チ 車駕東遷ノ後ニ於テモ延曆ノ遺範ニ遵ヒ登極ノ儀大嘗ノ典  
國家ノ大禮必ス是ヲ茲ニ行ハル、コトヲ規定セラル儀ニ紀念祭ノ事 震聽ニ

遠スルヤ特ニ賜フニ鉅萬ノ帑金ヲ以テシ  
 平安神宮ヲ尊ムテ官幣大社ニ列シ一ニ極原神宮ノ例ニ準セラル是ヨリ平安京  
 ノ重キ益加フルアリ其祖宗ヲ敬シ舊京ヲ重シ給フ 聖旨ノ在ル所孰カ欽仰セ  
 サラシヤ徳化ノ覃フ所官民心ヲ戮セ上下志ヲ一ニシ協贊會乃チ興ル此ニ於テ  
 實ヲ集メ材ヲ鳩メ之ヲ經シ之ヲ營ス庶民子ノ如ク來リ四方役ヲ助ク穆々タル  
 神宮巍々タル大殿日ナラスシテ之ヲ成ス夫レ大極殿ハ 桓武天皇聖念ノ注ス  
 ル所乃チ其規制ヲ考ヘ以テ之ヲ模造セリ朱楹旭光ト俱ニ輝キ碧峯山色ト同ク  
 綠ニ延曆ノ雄觀ヲ今日ニ仰キ千載ノ舊儀ヲ當代ニ存セリ乃チ其祭祀ノ具裝飾  
 ノ物ニ至ルマテ舊式ヲ考ヘ故實ニ徵シ以テ  
 神靈ヲ奉慰センコトヲ期セリ今ヤ  
 聖上萬機ノ暇ナキモ此京ヲ顧念シ給フノ厚キ特ニ殿下ニ勅シ代臨ノ榮ヲ賜フ  
 大祭ノ光輝益加ハリ市民ノ光榮何ソ窮リアランヤ歡情洽シ頌聲滿チ遠ク當年  
 ノ麗歌ヲ懷ヒ俱ニ今日ノ昭代ヲ祝ス夫レ延曆ノ遷都時適々此候ニ風ス意フニ  
 東山ノ秋光其レ今日ノ如クナリシナラシ鴨川ノ清流蓋シ舊時ト異ナラサルヘ  
 シ自今而後若クハ千二百年若クハ千三百年幾千萬祀ニ至ルマテ京都市民カ相

紹キ相承ケ以テ此大祭ヲ修メ今日裁ウル所ノ樹ハ蔚然林ヲ成シ祠宇深穆  
 神威益々加フルアラシク而シテ平安京ハ愈々繁榮ヲ増シ我國運ニ伴ヒテ益々隆昌  
 ナ極メシコト臣等カ期シテ待ツ所ナリ臣等誠惶誠恐頓首頓首謹テ奏ス

明治二十八年十月二十二日

京都市參事會  
京都府知事從三位勳二等山田信道

奏ノ畢ル御名代大勳位晃親王起立シテ勅語ヲ賜フ諸員皆起テ勅語ニ曰ク

茲ニ京都市民平安遷都千百年紀念祭ヲ舉ク朕之ヲ嘉ス

次ニ本部書記官進シテ野村內務大臣ノ祝詞ヲ代讀ス曰ク

京都市ノ平安遷都千百年紀念祭ヲ計畫スルヤ予其舉ヲ可トス職內務ヲ總フル  
 ニ及ヒ深ク贊助スル所アリ今其執行ニ際シ佳招ヲ辱フスト雖モ國事ノ暇ナキ  
 親シク其式ニ臨ム能ハス乃チ遙ニ祝詞ヲ寄セテ以テ盛儀ヲ慶ス夫レ平安京ハ  
 桓武天皇形勝ヲ相シ靈地ヲトシ之ニ建營シテ以テ萬世ノ皇都ト爲シ給ヒシ所  
 今ヤ時勢ノ變ニヨリ別都トナルト雖トモ

聖朝特ニ延曆ノ大猷ヲ重セラシ其崇望復々他方ノ比ニアラス況ンヤ  
列聖寢陵ノ地

今上降臨ノ所ナルサヤ京都市カ此記念祭ヲ行ヒ

桓武天皇ヲ奉祭シ無前ノ盛典ヲ舉クルハ誠ニ其務ヲ知レリト謂フヘシ宜ナル  
哉

聖朝恩旨ノ厚キ四方歸向ノ多キ嗚呼京都市ハ益自カラ盟メテ其自治ノ基ヲ鞏  
クシ精ヲ勵シ心ヲ協ヘ教養ヲ厚クシ職業ヲ勉メ物産ヲ殖シ民力ヲ培シ富庶繁  
榮ノ道ヲ進メ以テ

桓武天皇ノ神靈ニ對シ

今上陛下ノ特恩ニ報ヒ奉リ倍々千載名京ノ光輝ヲ發揚スルコトヲ務ムヘキナ  
リ是レ予カ記念祭ヲ祝シ併セテ將來ニ望ム所ナリ

明治二十八年十月二十二日

内務大臣正三位勳二等子爵野村 靖

次ニ協贊會長近衛公爵進ミテ總裁宮彰仁親王ノ祝詞ヲ代讀ス曰ク  
今茲明治二十八年ハ

桓武天皇延暦年間帝都ヲ平安京ニ遷サセ給ヒシヨリ一千百年ニ當レリ是ニ於  
テ京都市民ハ率先シテ記念祭ヲ行ヒ其宏徳ヲ追賛シ大ニ帝國ノ隆運ヲ祝セシ  
トス而シテ全國公衆ノ之ヲ贊助スル者頗ル多ク遂ニ記念祭協贊會ヲ組織シ以  
テ 平安神宮ヲ造營シ

天皇奉天ノ神靈ヲ鎮祭シ奉レリ今ヤ百般ノ設備成ルヲ告ケ茲ニ遷都ノ當日ヲ  
トシ記念大祭ヲ執行スルニ至レリ彰仁惟フニ我國皇統連綿二千五百五十五年  
ヲ經 帝徳愈隆ク 皇威益赫ヒ國光ノ宣揚文物煥發前古未ダ嘗テ聞カサル  
所ナリ況ンヤ 寶祚ノ盛隆ナル天壤ト窮リナキニ於テチヤ嗚呼此舉タル萬邦  
其比ヲ見サル所ニシテ大ニ延暦ノ鴻業ヲ表彰シ明治ノ光輝ヲ顯揚スルニ足ル  
今盛典ニ遇ヒ感喜措ク能ハス即チ數言ヲ陳シテ之ヲ祝ス

明治二十八年十月二十二日

平安遷都千百年記念祭協贊會總裁

大勳位功二級 彰仁親王

祝詞畢ル乃チ舞樂ヲ奏ス賀殿長保樂ノ二曲ヲリ此日雨儀ヲ以テ之ヲ殿上ニ奏シ  
タリ樂畢ル御名代便殿ニ御シ府知事從三位山田信道協贊會長從三位公爵近衛篤

磨同副長從二位子爵佐野常民同幹事從三位西村捨三熊谷久兵衛竹村藤兵衛辻信次郎市會議長雨森菊太郎紀念祭委員長內貴甚三郎府會議長中村榮助紀念祭委員西村治兵衛久世通章稚井小三郎等ニ謁見ヲ賜ハレリ其ヨリ府知事御先導ニテ御歸殿アリ其儀御臨場ノ式ノ如シ此ニ於テ紀念祭乃チ畢ル

饗宴

饗宴場ハ元博覽會農林館ヲ以テ之ニ充ツ其裝飾ヲ記セシ入口ニハ綠葉剪裁花ヲ以テ大綠門ヲ作り其上部ニハ大櫻花ヲ作り楣間ニ菊花ヲ以テ宴會場ノ三大字ヲ造レリ場内柱ハ皆綠杉菊花ヲ以テ之ヲ卷キ四面紅白段染ノ幔ヲ旋ラシ天井ノ粧飾ハ綠葉菊花ヲ以テ造リテ京都市ノ大徽章ヲ所々ニ掲ケ其間ニ小旗ヲ掲ケル數百旗長卓ヲ列シ其上ニ菊花時卉數百瓶ヲ安シ以テ食卓トス又場外大通ノ天井ハ國旗ト市ノ徽章アル小旗及紅燈ヲ吊シヨリ其裝飾都テ美麗ナリ儀式已ニ畢ル來賓ヲ導キ此ニ移シ宴會ヲ開ク其饌器ハ白木三重脚付角取ノ折ニシテ白粉綠彩ニテ菊花ヲ描ケリ奈瓦盆ニ粟田鵜吸物碗并ニ口取等ヲ添フ盃ハ伊東陶山作ニテ櫻花ヲ其中ニ畫キ其外ニ平安遷都千百年紀念祭ト記シ贈待ノ徽章ハ櫻花式ノ内ニ橋ヲ彩繪ヲ以テ繼セシモノヨリ其來場ノ時之ヲ交付シ胸間ニ挿シ以テ之ヲ表

セリ此日贈待セシ重ナル人ハ左ノ如シ

皇族 各大臣 親任官 勅任官 外國公使領事 貴衆兩院正副議長議員 協贊會々長 同副會長 同評議員 府縣知事 在京高等官 京都府會議員 府下官國幣社官司 各宗管長 內國勸業博覽會部長審查員 滋車漁船會社長 各新聞社長 各府縣寄附金者五百圓以上及特別招待員等總計千五百十九人ニシテ來會者ハ二百九十七人ナリ

第二日十月二十三日ハ第二ノ宴會トス其會場裝飾ハ昨日ノ如シ其饌器ハ三重白木角取折詰ニシテ其盃ハ白磁ニテ内ニ櫻花ヲ畫キ外ニ白釉ニテ平安遷都千百年紀念祭ト記セリ徽章ハ櫻花形繪物ナリ

贈待員ハ府縣ノ五拾圓以上五百圓未満ノ寄附金者各府縣取引所銀行會社及ヒ京都府廳各課長警察署長主殿寮諸院寮出張所屬官幣社福宜府社社司私立學校長并ニ市衛生學務委員學區會議員編纂部員等總計千八百十人ニシテ來會者ハ千三百二十九人ナリ

第三日十月二十四日ハ第三宴會ニテ其式昨日ノ如シ其饌器及ヒ盃モ昨日ノ如ク徽章ハ橋ヲ表シタリ

請待員ハ廳府縣ノ拾圓以上五拾圓未満ノ寄附金者其他參拜章取扱人協賛會書記  
紀念祭關係者等總計六千七百五十四人ニシテ來會者ハ三千三十五人ナリ  
夫レ平安遷都千百年紀念祭ハ實ニ希世ノ盛典ニシテ京都人士ノ之ヲ首唱シ上ハ  
皇室ヨリ特別ノ御補助ヲ仰キ廣ク全國有志ノ協賛ヲ得テ其事ヲ大成シ此吉日令  
辰ヲ以テ辱ク車駕ノ御代臨ヲ奉迎シ且内外貴賓ノ會同ヲ得テ此盛儀ヲ舉行シタ  
ルハ實ニ慶祝欣喜スヘキノ極ナルヲ以テ賓主相共ニ歡ヲ盡シ慶ヲ表シ同ク延曆  
ノ洪曠ヲ贊シ共ニ明治ノ昭代ヲ祝シ益々我京都ノ千萬斯年ニ隆昌ナランコトヲ  
祈リテ退會セリ

餘興

餘興ハ委員會ニテ種々協議ノ上舞樂競馬相撲軍樂ト決シタリ舞樂ハ古代ノ雅宴  
大饗ノ式ヲ寫シ競馬ハ賀茂ノ正式ヲ行ヒ以テ古代ノ武技ヲ寫シ相撲ハ桓武天皇  
深ク御好ミアリシ事蹟ニヨリ特ニ三都ノ大相撲ヲ會シ之ヲ興行セシメ軍樂ハ明  
治昭代ノ盛ナルヲ表シタリ樂人ノ事ハ第六項ニ記セリ紀念式ノ時奏セシハ賀殿  
長保樂ノ二曲ニシテ式中南庭ノ舞臺ニテ行ヘリ其樂ノ説明左ノ如シ  
賀殿

此曲ハ仁明天皇ノ承和年中ニ遣唐使掃部頭藤原良敏琵琶ヲ以テ習ヒ傳ヘタ  
リシモノナリ同天皇ノ嘉祥年中ニ從五位下笛師和邇部太田磨勅ヲ奉メテ嘉  
祥樂ヲ作レリ是ニ於テ嘉祥樂ヲ破トシ賀殿ヲ急トシ迦陵頻ノ急ヲ道行トシ  
テ此三曲ヲ合シテ一樂トナシ林眞倉ナシテ賀殿ノ樂ヲ作ラシメタリ堀河天  
皇嘗テ開院ニ幸シ相撲御覽ノ時萬歲樂ヲ奏セシコトヲ命シ給ヒシニ大江匡  
房ハ賀殿ヲ奏セント請ヒ則チ猶光孝ヲシテ之レヲ舞ハシム時人謂ラク匡房  
蓋シ爾院ノ新成シタルヲ以テ之ヲ奏セシメタルナリト今神殿ノ新成ニ當ツ  
テ此曲ヲ奏ス猶其意ナリ

長保樂

高麗樂ノ一ナリ長保中傳來ス因テ樂ニ名ツクト云フ

競馬ハ第一日第二日ノ餘興トシテ慶宴場ノ北ニ埒ヲ結ヒ正式ノ場ヲ構ヘ之ヲ行  
フ賀茂ノ儀ノ如シ其番組左ノ如シ

階下	左方	星野 眞直	肝煎	岡本 右願	階下	左方	増澤 季實
	後見	中大路 季滿	山本 經生	山本 清明		後見	山本 孝氏
肝煎			中大路 商顯				



- 一番 右 岡本 季照 二番 右 西池 氏明 三番 右 岡本 保欸
- 四番 右 藤木 永吉 五番 右 山本 善三 六番 右 岡本 忠清
- 七番 右 中山 賢吉 八番 右 岡本 保善 九番 右 岡本 福若
- 十番 右 藤木 頼直

能樂ハ元博覽會場東工業館内ニ舞臺ヲ設ケ片山金剛二氏ヲテ之ヲ興行セシム  
 第二日第三日ニ之ヲ行フ其番組ハ第二日ハ金札正尊土蜘蛛狂言二曲第三日ハ小  
 鍛冶羽衣石橋狂言二曲ナリ

能樂

金剛鈴之助

片山九郎三郎

金剛藏之助

觀世清康

軍樂ハ第四師團ニ請ヒ饗宴場ノ南ニ其所ヲ設ケ饗宴ノ際絶ヘス之ヲ奏シ以テ其  
 興ヲ助メ

軍樂

陸軍軍樂長中尉永井岩井

樂隊五十人

相撲ハ頭取華の峰善吉いろは幸太郎二人ヲテ三都ノ力士ヲ集メ第二日第三日  
 元博覽會式場ニテ之ヲ興行セリ

相撲

京都

- |      |      |     |     |      |    |    |      |     |     |      |
|------|------|-----|-----|------|----|----|------|-----|-----|------|
| 山の音  | 諏訪の海 | 一の矢 | 友の平 | 小の川  | 柏山 | 大阪 | 釋迦ヶ嶽 | 眞龍  | 松の音 | 東川   |
| 南方   | 早船   | 山猫  | 常磐方 | 桐島   |    |    | 松尾崎  | 石火矢 | 吉野山 | 松若   |
| 谷川   | 梅勇   | 神田川 | 岩木川 | 鐵石   |    |    | 一の矢  | 榮山  | 大岩  | 白山   |
| 都川   | 立雲   | 山譽  | 梅の森 | 阿武の松 |    |    | 鶴ヶ關  | 瀧の海 | 白川  | 大碓   |
| 六ツヶ峰 | 男山   | 三ツ星 | 金時  | 浪の岩  |    |    | 玉の矢  | 大高  | 藤の里 | 都賀ヶ里 |

平石 小極山 菊ヶ濱 若 勇 備 又

七ッ島 高根山 宮 錦

東京

元 達 高 濱 八ッ劔 古 廻 初瀬川

谷の音 海 山 東 山 小 牧 山 鬼の膳

梅の島 岩ヶ嶽 小 湊 若 勇 小 綴 リ

三ッ湊 名張川 虹ヶ嶽 大の森 三ッ石

山 櫻 達の越 熊ヶ谷 吉の音 黒 船

鬼面山

行司

木村玉之助 木村要八 木村荒太郎 木村庄太郎

吉岡虎之助

頭取

華の峰善吉 いろは幸太郎

桓武天皇御肖像模寫同標裝ノ事

遷都記念祭ニツキテハ桓武天皇ノ御肖像ヲ寫シ之ヲ記念祭場ニ奉安スルノ事ヲ  
委員會ニテ可決シ其御肖像ヲ探索セシニ今ニ存スルモノ甚々少ナク間々之アル  
モ概テ後世ノ作ニ過キサルカ如ク延曆寺ニハ從來勅封ノ御像アルヲ聞キ委員派  
出シテ該寺ニ問合セシニ勅封ニテ容易ニ開封スヘカラス然レトモ記念祭ハ稀世  
ノ盛事ナレハ滋賀縣知事ヨリ宮内省ニ願出テ許可ヲ得レハ開封スルヲ得ヘシト  
回答セリ因テ市參事會ヨリ滋賀縣ニ照會スルニ記念祭ニ付延曆寺滋賀院勅封中  
ナル桓武天皇御像ヲ模寫シ奉リ度ニ付勅封開封ノ義可然取計アリタキ旨ヲ依頼  
シ滋賀縣ニテハ之ヲ承諾シ其々手續ヲナシ宮内省ノ許可ヲ得テ開封模寫ノコト  
トナリ二十六年十月三日内貴委員長雨森確井兩委員美術工藝學校教諭榊原長敏  
ヲ伴ヒ滋賀院ニ出張ス滋賀縣知事大越亨屬官ヲ從ヘ臨監シ開封ノ上別室ニ於テ  
拜觀セシム委員ヨリ知事役僱ト協議シ模寫ノ許可ヲ得テ長敏ヲシテ謹ソテ模寫  
セシム長敏其翌二十九日午下ニ至リ模寫ヲ終レリ大越知事再ヒ出張シ寺僧之ヲ  
辛櫃ニ納メ奉レリ此時香華ヲ奉リ讀經ノ式アリ其御像ハ左ノ如ク  
御宸影ハ絹本豎三尺九寸幅二尺極彩色地金ナリ御像ハ桐竹ノ御袍ヲ召シ黒紗

冠ニ燕尾ヲ附セシテ戴キ窠ニ殿ノ下袴ニ緋ノ大口ヲ着ケ手ニ笏ヲ持シ給ヒ容  
顏豐富ニシテ椅子ニ寄り少シク右願シ給ヘリ上ニ綬アリ其袷裝ハ花田色菊模  
様小金襦ニシテ一文字ハ給表具ナリ裏書ニ曰ク

和州十市郡田原本樂田寺三品庫方永代奉寄進之者皆文安三年丙十月二  
日施主賢觀房阿闍梨長慶謹誌之  
桓武天皇宸影巨勢廣貨年

此一軸相傳次第

教養房阿闍梨定玄賢觀房法印圓海

長禪房賢海

賢觀房

其袷背ノ記ヲ案スルニ蓋シ古傳ノ畫ヲ文安年中ニ本寺ニ奉納セシモノニテ其後  
勅封トナリシカ如シ廣貨ハ蓋シ弘高ト同人カ其眞筆カ如何ハ今判定シカケレ  
ト桓武帝御像ノ現存スルモノ、中ニテ最タルヲ知ルヘシ此御像ハ後陽成帝以來  
御一代一度開封アル例ナリシカ明治十二年以來ハ風入ノ爲メ五ヶ年ニ一度開封  
スルコトトナリ一昨年開封セシヲ以テ明治二十八年ニアラサレハ開カサルコト  
ナリシカ此回特別ニ許可アリシトナリ長敏心ヲ盡シテ精密ニ臨摸シ一軸モ茲ヲ

失ハサラソコトナ期シ明年一月ニ至リ全ク成レリ委員會ニテ其袷裝ニ意匠ヲ盡  
シ左ノ如クセリ

寸尺仕立總テ原本ノ如シ 一文字繪具中廻シ薄色金襴上下紫地辛草ニ向ヒ鳥  
ノ模様古殿子織ヲ用ニ此模様ハ圖地復一ノ考案伊達虎一ノ製織ニ係リ袷具與  
村吉平ナリ袖ハ鍍金辛草毛彫紐ハ高麗組ノ紫段染ナルヲ用ニ其箱ハ中箱桐ノ  
証目辛止メ金鈔ヲ施シ金具ハ鍍金ノ花菱ナリ外箱ハ辛櫃式ニシテ柃木ノ証目  
ヲ用ヒ金具ハ無地金減金ニシテ皆村田耕園ノ作箱ハ黒田卯助ノ製作ナリ

此御畫像ハ明治二十九年二月八日市第五號議案ヲ以テ市會ノ議決ニモリ平安神  
宮ノ寶庫ニ奉納セリ

### 第六章 平安通志編纂ノ事

遷都紀念祭ノ事決定スルヤ編纂部ヲ設ケ 桓武天皇ノ偉蹟平安京ノ沿革美術工  
藝ノ事等編纂ノ計畫アリ已ニ帝國博物館及ヒ國學院ニ其事ヲ托シタリ二十六年  
四月ニ及ヒ京都府委員湯本文彦平安通志編纂ノ議ヲ建ツ其畧ニ曰ク  
平安遷都紀念祭ハ京都ノ美事國家ノ盛典ニシテ實ニ稀世ノ大儀タリ則チ平安  
京ノ全志アリテ以テ紀念祭ヲ行フ所以ヲ明ニセサルヘカラス此事ハ已ニ客年  
十月委員ノ廣布セシ旨趣書中ニ明言セリ誠ニ其宜シキヲ得タリト謂フヘシ若  
シ此編纂ナカリセハ其祭事ヲ盛ニスルモ何ヲ以テ 桓武天皇ノ鴻烈平安京ノ  
光華ヲ内外ニ發揚スルニ足ンヤ故ニ此紀念祭ニ付平安ノ全書ヲ作ラサルヘカ  
ラス中古亂雜史官廢シ文事衰ヘ加之幕府猖獗務メテ京都ノ美事ハ壓抑ヲ加ヘ  
シヲ以テ京都ニ關スル書ハ大抵名勝菴址ニ止リテ未タ完全ノ著編アルアタハ  
ス夫レ世界ノ廣キ帝都ノ古キモノ支那洛陽ト西洋羅馬アルノミ然レトモ此二  
京ハ主亡ヒ國破レ敗墟トナリシ事幾回ナルヲ知ラス則チ世界一等ノ舊京ハ獨  
リ我平安京アルノミ是豈帝國ノ光輝ナラスヤ而シテ未タ一編ノ成書ナキハ缺

典ト謂フヘシ況ンヤ今王室中興ノ隆運ニ際スルナヤ又況ンヤ萬國交通ノ盛時ニ會スルナヤ外國觀光ノ容爭ヒ來リテ京都ニ遊ヒ稱シテ以テ世界ノ名都人寰ノ仙境トナス思フニ是唯山水明媚花木靚妍ニツキテ云爾ノミ其 列聖經綸ノ蹟神京造營ノ制ヨリ其他舊事ヲ問フニ及ンテハ則チ以テ答フヘキナク 聖帝ノ英蹟ト名京ノ光輝ヲ發揚スルニ足ルモノナシ誠ニ遺蹟ト謂フヘシ文彦哲ヲ平安沿革考ヲ著シサントスルノ志アリ先キニ其方案ヲ立テシモ未タ功ヲ成サス千年ノ舊京事端紛錯一手ノ能クスル所ニアラス況ンヤ文書散亡史料ノ甚タ乏シキナヤ然レトモ此編タル京都必要ノ書ナルヲ以テ其機ヲ待ツ此ニ年アリ今幸ニ此好機ニ會ス因テ延曆奠都以來ノ事實ヲ網羅シ 桓武天皇ノ英烈偉業平安京ノ規模經制千百年ノ典章制度治亂沿革及ヒ神社佛寺名勝舊址美術工藝物産人物百般ノ事實ヲ集メテ一書ヲ編纂シ之ヲ平安通志ト號シ之ヲ神宮ニ獻シ且ツ内外ニ發行アラソコトヲ望ム此事固ヨリ容易ナラサントモ苟モ經畫宜ヲ得委任成テ資ムレハ未タ必シモ爲シカタトセス此業ニシテ成ルヲ得ハ本市ノ廣告其實ヲ得ルノミナラス此ノ紀念祭ノ爲メ平安京ノ全書ヲ成シ延曆ノ偉業ヲ顯揚シ京都ノ光輝ヲ發揚スルニ足ラソカ因テ其編目事項ヲ具シ以テ建

議シ謹テ採聽ヲ仰テ

明治二十六年四月八日

京都府委員 湯本文彦

平安通志編目

第一編

平安建都ノ事由造宮ノ規制沿革 桓武天皇御記皇室紀事延曆功臣傳延曆以來京都殿制

第二編

延曆以來政權ノ變遷

第三編

延曆以來典章制度及ヒ京都ニ屬スル神社佛寺名勝舊址美術寶物物産氏族人物風俗等

第四編

延曆以來ノ歴史ニシテ京都ニ關スル大事ヲ紀事本末体ニ配ス

第五編

延曆以來ノ長曆

其事目ハ之ヲ畧ス

四月十一日編纂部委員ハ建議者湯本文彦ト其事ヲ商議シ幾回密議ノ上委員會ニ於テ先ツ其經費豫算成功計畫ヲ立ツル事トシ文彦ニ囑スルニ其事ヲ以テス文彦乃チ其案ヲ草シ凡編纂費金五千圓ヲ目的トシ其方法ヲ立テ之ヲ提出セリ委員會ニ於テ幾回討論ノ上之ヲ可トシ其編纂旨趣書ヲ作り文彦ノ建議ニ附シ之ヲ印刷セリ

平安通志編纂旨趣書

夫レ平安京ハ延曆奠建ノ皇都千有餘年ノ帝京ニシテ之ヲ古今ニ徵シ之ヲ萬國ニ求ムルニ復タ比類スヘキ者アルコトナリ是レ獨リ我京都ノ名譽ノモナラス實ニ天壤無窮ノ寶祚萬世一系ノ帝國タルノ光輝ニシテ即チ 桓武天皇ノ雄畧英國ニ之レ基ケリ京都市民タル者豈此帝國ニ報ヒ此帝京ノ光輝ヲ耀カス所以ヲ思ハサルヘケンヤ是レ來ル明治二十八年ヲ期シ平安建都千百年紀念祭ヲ執行セントスル所以也已ニ此字内無比ノ盛典ヲ執行スルニツキテハ之ニ伴フ所ノ大著述アリテ以テ延曆建都ノ宏願平安造營ノ大業ヨリ以テ千百年ヲ經過シ今日ニ至レル事蹟ヲ考明シ以テ其實徵ヲ明ニセサルヘカラス然ルニ古來京都

ニ係ル著作ハ唯名所舊蹟ノ遊覽風流詩士ノ玩具ニ供スル書籍ニ止マリ完全ノ者アルコトナリ是レ王政衰ヘ史官廢シ朝府權ヲ專ニシ王室ニ關スル事ハ勉メテ檢束ヲ加ヘシヲ以テ此志アル者アルモ古來京都ノ爲ニ完全ノ書ヲ著作スルコトヲ得ス爲メニ萬國無比ノ盛蹟ヲ埋没シテ以テ今日ニ及ヒシハ豈慨歎ノ至リナラスヤ今ヤ天運循環中興ノ際運ニ際シ平安京ノ爲ニ全書ヲ著作スルノ時機ニ際セリ況ヤ自治制實施京都ノ基礎益鞏固ナル時運ニ於テチヤ又況ンヤ世界無比ノ盛典ヲ執行セントスルノ今日ニ於テチヤ必ス奠都ノ事由造京ノ規模ヨリ其他百般ノ事實沿革等ニ至ルマテ吾平安京ニ係レル者ヲ蒐集編纂シ千百年ノ成蹟ヲ瞭然通覽スルニ足ルヘキ一大著作ナカルヘカヲサル也因テ湯本文彦ヲ提出セシ平安通志編纂議ヲ可決シ其綱領及編目ヲ立テ平安通志ノ一書ヲ編纂スルコトヲ議決ス

明治二十六年九月

桓武天皇遷都千百年紀念祭委員

其經費ハ凡壹萬圓トシ内八千圓ヲ編纂費貳千圓ヲ出版費トナス案ヲ以テ之ヲ市會ニ附セシニ市會ニテハ削減ヲ加ヘ五千圓ヲ以テ編纂費トシ千五百圓ヲ以テ出版費ニ充テ都合六千五百圓ヲ二十六七兩年度ノ繼續費トシ支出スルコトニ決シ

タリ九月ニ至リ其編纂綱領并ニ事務規程ヲ議決スル左ノ如シ

平安通志編纂綱領

- 一本誌ハ平安通志編纂議及編纂事目ニ依リ之ヲ編纂スルモノトス
- 一本誌ハ來明治二十七年十二月ヲ以テ脱稿シ二十八三年三月ヲ以テ校合印刷ヲ終ル者トス
- 一本誌編纂經費ハ別紙豫算表ニ依ル

同事務規程

- 一本誌編纂ノ爲メ事務長一名主事一名編纂員囑托員若干名ヲ置ク
- 一事務長ハ本務ヲ總轄シ其成功ノ責ニ任ス
- 一主事ハ事務長ノ命ヲ受ケ本誌編纂ノ事ヲ管理シ編纂員以下ヲ監督ス
- 一編纂員ハ各其擔當ノ事項ヲ考査編纂ス
- 一囑托員ハ囑托ニ係ル事項ヲ考査編纂ス
- 一囑托員ハ事宜ニヨリ編纂員ト同シク其事業ニ專任スルコトアルヘシ
- 一編纂事業ハ毎三月ニ其成績ヲ市參事會ニ報告スヘシ
- 一市ノ委員ハ編纂事務ニ付其意見ヲ述ヘ又ハ事務長ノ諮問ニ答フルモノトス

一庶務ハ編纂ニ係ル府廳委員及ヒ市ノ委員ニ於テ取扱フモノトス

又同給料報酬手當慰勞支給内規ヲ定メ京都府書記官ヲ事務長トシ建議者湯本文彦ヲ主事トシ一切編纂ノ事ヲ任ス主事ハ編纂意見ヲ草シ之ヲ提出ス

- 一通志編纂上ノ計畫
- 一經費變更ノ件
- 一職員組織ノ事

志料蒐輯職員雇入ノ爲メ上京ノ事

委員會ニテ皆可決スルヲ以テ府委員ヲ補助員トシ其他囑托員ヲ置キ九月一日假ニ府廳ニ事務所ヲ開キ始メテ其委員職員ヲ會シ主事ヨリ編纂ノ旨趣方法將來成功ノ計畫等ヲ演說シ其編目事項等ニ付考案ヲ求メタリ此事業ハ短期ノ大事件ニシテ到底日常出席時間ノミ從事スルニ止ムレハ成功スヘカラス主任タルモノハ一身ヲ此事ニ投シ日夜從事セサルヘカラス然ル時ハ事務所ト接近セザレハ不可ナルヲ以テ主事ノ私宅ニ就キ特ニ編纂部ヲ置クコトト決シ十月二日主事湯本文彦ノ私寓ニ於テ編纂部ヲ開設シ初メテ委員會ヲ開キ其上京ノ事ヲ可決セリ十月十日雨森委員湯本文主事囑托員田中勘兵衛上京シ東京ニテ國史ニ著名ナル諸家ノ

集會ヲ求メ平安通志編纂ノ事ヲ談シ其建議旨趣書綱領事目ヲ配付シ其協賛ヲ求  
メシニ皆非常ノ贊成ニテ十分盡力補助スヘキコトヲ諾セリ且ツ其志料モ成ルヘ  
ク補助スヘシトテ帝國大學東京圖書館帝國博物館宮内省圖書寮及國學院ニ於テ  
其藏書ハ何ニ限ラス見聞贈寫ヲ許サル又編纂員雇入ノ事ヲ依頼シ大學古典科卒  
業生二名ヲ採用スルコトトシ十二月相伴ヒテ歸部セリ是ニ於テ更ニ會議討論シ  
第二編ト第三編トヲ合シテ第二編トシ其他少シク増減シ一齊ニ編纂ニ著手セリ  
京都ハ志料乏シク東京ニアラサレハ蒐輯シカタクモノアルヲ以テ其採用セシ二  
名ハ東京ニ於テ編纂セシムルコトトシ時々往來協議セシム又事務ノ進行ニ隨ヒ  
數員ヲ増加シ其功程ヲ急キタリ二十七年四月各編數卷成稿セシヲ以テ主事ハ之  
ヲ携ヘ上京シ諸大家ニツキ其体裁紀事粗密等ヲ相謀リシニ各大ニ之ヲ稱賛シ且  
其意見ヲ附シ成稿ノ上ハ其校閱ノ事ヲ諾セラレ其序ハ漢体ハ川田文學博士和文  
ハ福羽子爵ニ依頼シ共ニ其承諾ヲ得タリ十二月第一編二十二冊第四編八冊成稿  
セリ二十八年一月主事之ヲ携ヘテ上京シ福羽子爵文學博士川田剛小中村清矩黒  
川眞頼星野恒文科大學教授栗田寛帝國博物館技手小杉根郎ニ校閱ヲ托シ且疑義  
ヲ質シ意見ヲ問フ其後各家校閱附箋返却アリシヲ以テ主事ハ之ニ對シ取合刪定

ノ之ヲ參事會ニ報告セリ六月下旬第二編二十三卷第三編六卷成稿ス此ニ於テ全  
部成稿セリ主事ハ又携帶上京爾ノ諸家ニ校閱ヲ托シタリ第二編ハ其事最モ困難  
ナルカ上期限已ニ迫ルヲ以テ諸家ニ於テモ頗ル之ヲ難シセシカ更ニ事情ヲ盡シ  
之ヲ依頼シ其承諾ヲ得タリ七月下旬ニ至リ全部校閱了ルヲ以テ主事ハ其附箋ニ  
對シ一々調査之ヲ取合刪定スルコト本春ノ如シ本書ハ數十冊ノ大部事目ノ多キ  
一事ニシテ數所ニ出ツルモノアリ又甲ニ略シ乙ニ出スコトアリ故ニ全部ヲ通覽  
セザレハ其要ヲ得ヘカラス諸大家ニテハ全部通覽ノ遠ナキヲ以テ其校閱上差誤  
ヲ免カレンス此ヲ取合スルニ於テ最モ苦心セリ  
其圖ハ古圖又古書ニ據リ或ハ新ニ考證シテ之ヲ作りシモノアリ延曆以前山城事  
蹟國平安京實測大圖ノ如キ是ナリ實測大圖ノ事ハ別章ニ記セリ之ヲ縮小ニシ墨  
朱兩色ニナスニ付テハ無數ノ辛苦經營ヲ費シ爲ニ遠寄徹夜スルニ至リ彫刻ハ  
銅版師前田寅吉ニ命シタリ  
其題字ハ協贊會々長有栖川宮殿下ニ願ヒシモ其罷去ニ際シ更ニ協贊會々長小松  
宮殿下ニ願ヒ左ノ題字ヲ賜ハレリ  
山河襟帶永護皇猷



序文ハ漢文和文トモ草稿ノ上一旦郵示アリテ更ニ意見ヲ附シ博士ニ於テ其々加  
除アリテ成功セリ川田氏ノ序ハ其書ヲ府屬殿本範治ニ囑シ福羽子ノ序ハ自筆ナ  
リ渡邊府知事ノ序文亦然リ  
延暦官印及造平安宮職印ヲ冠スル事ハ主事ノ建議ニナレリ一旦彫工ニ命メタル  
ト匠氣多ク不可ナルヲ以テ更ニ府屬殿本範治ニ囑シ之ヲ彫刻セリ其跋文ハ渡邊  
府知事ノ作並書ナリ  
印刷製本ハ幾回密議ノ上美濃版大本四號活字一行三十三字十六行トシ競争入札  
ヲ以テ之ヲ博成堂小谷義一ニ命メタリ其校正ノ爲メニハ部員一同其印刷所ニ出  
張シ一ヶ月餘日夜功程ヲ督メ之ヲ了セリ  
此編纂ハ非常困難ナル事業ニシテ最初ハ大低以テ成功シカタメトセリ然レトモ  
主事ハ已ニ建議者ヲ以テ其主任タル上ハ難而已アルノミト決心シ日夜從事寢食  
殆ント忘ル大概毎章其方法ヲ立テ之ヲ部員ニ分附シ其功程ヲ督メ最殿ヲ課シ持  
据經營爲ニ辛苦ヲ極ム或ハ日程ヲ立テ月表ヲ作り三ヶ月毎ニ成績報告ヲ爲シ又  
毎週協議會ヲ開キ又特別慰勞ヲ支給シ百方獎勵督責シ曰ク此業ハ猶孤軍敵地ニ  
入ルカ如ク身ヲ殺スカ功ヲ立ツルカアルノミ初メヨリ危キヲ恐ル者ハ事ヲ與ニ

スルニ足ラス吾人已ニ筆硯ヲ以テ事ニ任ス猶軍人ノ干戈ヲ執リ役ニ從フカ如ク  
必ス此業ヲ成メテ以テ報國ニ當ツヘント然レトモ其草ニ甲乙ナキアタハス種々  
修訂メテ以テ成稿スルヲ得タリ  
初メ出版費ノ不足ヲ以テ僅ニ三百部ノ外印刷スルヲ得ス然ルニ此大作ヲ成メ僅  
ニ三百部ニ止ムルハ甚惜ムヘキトノ説多數ヲ占メ更ニ三百部ヲ増刷スルコトト  
ナリ合シテ六百部ヲ印刷セリ三百部ハ上下二帙三百部ハ一帙トシ其表紙ハ淡茶  
色紙ニ古体四神ヲ打出シニ關ハシタリ  
内務省納本版權登錄ノ件ハ左ノ如ク

出版御届

一平安通志

全二十冊

右ハ京都市參事會編纂延暦遷都以降現今ニ至ル京都ニ關スル一切ノ事項ヲ編  
録セル歴史ニシテ今般出版候條製本二部相添此段御届致候也

明治二十八年十月四日

京都市上京區下立賣通新町西入藪内町

著作兼發行者 京都市參事會

右代表者

京都市紀念祭委員長

內貴甚三郎

內務大臣子爵野村 靖殿

版權登錄願

一平安通志

全二十冊 一部ノ定價金六圓

此登錄料金拾圓

登記印紙 五圓

登記印紙 五圓

右本日出版御届致候條版權登錄被下度此段相願候也

明治二十八年十月四日

京都市上京區下立賣通新町西入藪内町

版權所有者

京都市參事會

右代表者

京都市紀念祭委員長

內貴甚三郎

內務大臣子爵野村 靖殿

同十一月九日ヲ以テ版權登錄證ヲ下附セラル

日ノ

版權登錄之證

平安通志

二十冊

編纂者

京都市參事會

右第二五七七號ヲ以テ版權登錄簿ニ登錄ス

明治二十八年十一月九日

內務省

獻本ハ別製美本仕立ト用紙ハ上等江戸川紙題字序文圖式ハ大率書表紙茶色絹  
地ニテ銀泥ニテ四神ヲ描キ紙ハ緑色菊唐草紋敷子裏ハ烏ノ子敷金紙ヲ用キ  
十一月一日在東京山田府知事ニ左ノ文書ヲ以テ傳獻ヲ申請セリ

天皇陛下

皇后陛下

皇太后陛下

皇太子殿下

常宮殿下

周宮殿下

富美宮殿下

右ハ今回京都市ニ於テ平安遷都千百年紀念祭執行ニ付テハ桓武天皇ノ盛徳鴻烈ヲ編述シ此千百年ノ久シキ無極ノ洪澤ヲ被リテ聖恩ニ奉答シ平安京ノ規制沿革變遷等ヲ考明シ此紀念祭ヲ執行スル旨趣ヲ表明スル爲メ平安通志ナル一書ヲ編纂ニ付七部進テ奉獻仕度僅々日月ヲ以テ輯纂ノモノニ付脱漏モ可有之且印刷誤謬等モ有之恐棟ノ至ニ不堪候得共可然御傳獻御執成被下候得ハ市民一同無前ノ光榮ニ御座候也

京都市參事會

明治二十八年十一月一日

京都府知事山田信道殿

其後宮内大臣ヨリ左ノ通知アリ

一平安通志

七部

右今般京都市參事會ニ於テ編纂ノ旨ヲ以テ

天皇陛下

皇太后陛下

皇后陛下

皇太子殿下

常宮殿下

周宮殿下

富美宮殿下へ獻上願出ニ付傳獻被致其々御前へ差上候此段申入候也

明治二十八年十一月十四日

宮内大臣伯爵土方久元

京都府知事山田信道殿

平安神宮ニハ紀念祭ノ式ニ於テ之ヲ獻納セリ其式左ノ如シ但レ平安通志ニ係

次 府屬幣物ヲ假ニ案上ニ置ク

次 府屬平安通志ヲ假ニ案上ニ置ク

次 祭主幣物ヲ神前ノ案上ニ奉ル

次 祭主平安通志ヲ神前ノ案上ニ奉ル

次 祭主祝詞ヲ奏ス 祝詞ニ通志ヲ編纂ス

中畧

次 市參事會京都府知事以下玉申ヲ奉リ敬禮 此中ニ編纂ヲ加フ

中畧

次 祭主以下幣物平安通志及ヒ物儀ヲ撤ス

下畧

十月二十二日紀念祭ノ時平安通志上下二帙ヲ神宮ニ奉獻セリ此時主事ヨリ參事會知事ニ申報セシ狀ニ曰ク

平安通志成功報告

平安通志編纂ノ事ハ明治二十六年四月ノ發議ニシテ七月市會ノ決議ヲ經九月任スルニ其事ヲ以テセラル十月志料蒐集職員採用ノ爲メ東京ニ赴キ十二月歸部編纂ノ事ヲ起シ客年十二月第一編第四編合三十卷ヲ脱稿シ携帶上京專門階家ニ校閱ヲ求メ本年四月第二編第三編ヲ了シ又上京校閱ヲ專門家ニ托ス七月全部校閱終リシヲ以テ之ヲ取會制定シ八月印刷部敷ノ決定セシヲ以テ之ヲ

印刷ニ附シ日夜功程ヲ督シ以テ之ヲ了セリ其序文題字等ハ漸次竣成セシヲ以テ之ヲ製本ヲ命ジ今日ニ及ヒ獻本七部上等本三百部先ツ成リ其他ハ漸次相納メントス抑モ此著編タル非常ノ大業タリ然ルニ文彦淺劣ヲ以テ其任ニ當リタリ常ニ負荷ニ堪ヘサルヲ恐ル乃チ其綱領ニ基キ各編ニツキ其編纂方法ヲ立テ之ヲ各員ニ分附シ課程ヲ督シ事項ヲ促カシ且ツ編シ且ツ修メ屢ニ繼キ年ヲ窮ム其間全章廢稿ニ屬スルモノアリ大半收修ニ附スルモノアリ非常ノ困難ヲ極メシカ今ヤ神明ノ靈ト大方ノ力トニ頼リ幸ニ其事ヲ幹スルヲ得タリ一書四編三十三章六十卷之ヲ合シテ二十本トシ之ヲ別ナテ二帙トス上ハ延曆十二年ニ起リ以テ今日ニ及フ之ヲ括スルニ總說ヲ以テシ之ヲ通スルニ長曆ヲ以テス其取舍ノ間立論ノ旨ニ至リテハ事必ス延曆ノ鴻謨ヲ推シ施政ノ跡經綸ノ業ニ於テ尤モ深ク思フ致シ致々トシテ

桓武天皇ノ鴻烈盛徳ヲ顯彰シ平安京ノ光輝ヲ發揚センコトヲ務メタリ千百年ノ久シキ事端萬緒記載紛錯淺學不文ノ能ク盡ス所ニアラスト雖トモ編著ノ旨超專ラ此ニ在ルヲ以テ本書ノ成ルニ際シ一言以テ照鑑ヲ仰ク其編纂始末ニ至リテハ別ニ編録以テ覽ニ供セントス

右申報候也

明治二十八年十月二十二日

編纂部主事 湯本文彦

京都市參事會

京都府知事山田信道殿

上製三百部ハ皇族、内閣、諸省、樞密院、貴衆兩院、宮内省、同省職部、寮局、帝國大學、東京圖書館、帝國博物館、圖書館、學藝院、學士會院、東京美術學校、高等師範學校、高等各學校、各大臣、同待遇者、樞密院正副議長、貴衆兩院正副議長、文部、農商務、次官、大學總長、近衛公爵、佐野伯爵、協贊會幹事、九鬼總長、其他編纂上關係アル福羽子爵、川田、小中村、黒川諸博士、北垣、千田、渡邊、前知事、尾越、一阪、前書記官、聯合府縣知事等、京都ニテハ府廳、市參事會、府會、市會、紀念祭委員、市會議員、府會議長、市常置委員、府廳高等官、市立學校、其他官國幣社、大本山、名刹、各種協會ノ重ナルモノ編纂關係者、新聞社等ニ配附セリ、其一、映製ノ分ハ市中尋常小學校六十校、府廳諸課長等ニ配付シ、二百部ハ希望者ノ購賣ニ便スル爲メ、東枝吉兵衛ニ托シ發賣セシメタリ、東京専門諸家ニハ本書ノ外、謝儀トシテ福羽子爵ニ銀蓋、青磁香爐、川田博士ニ模古銅尊式花瓶、故小中村博士ニ純銀水注、黒川博士ニ青華變發紋花瓶、栗田教授ニ模古

温室式花瓶、井上圖書局ニ鐵線模樣花瓶、小杉技手ニ金參拾圓ヲ贈遣セリ

### 京華要誌 和文案内記

京華要誌編纂ノ事ハ二十六年十一月二十八日ノ委員會ニ於テ議定セリ、其編纂例ヲ定ムル左ノ如シ

#### 和文案内記編纂例

案内記ハ旅客ノ便利ヲ計リ編纂スルモノナレハ其体裁文字共平易簡便ヲ主トシ粗漏ニ失セサルヲ要ス  
編纂ハ一卷トナシ京都市内及ヒ近傍ニ在ル所ノ神社、佛閣、名所、古跡ノ記事ヲ主トシ併セテ聯合府縣遊觀地ノ概況ヲ載セテ附録トナス、其紙數ハ凡ソ五百頁トシ製本ハ携帶ニ便ナルヲ要ス

#### 編次

一 山城國全國

一 總論

京都沿革

京都地勢方域

- 一 旅客ノ注意
- 交通
- 旅店
- 遊覽ノ順序
- 一 御所離宮
- 御所
- 離宮
- 一 紀念祭場
- 一 帝國京都博物館
- 一 第四回内國勸業博覽會
- 一 京都博覽會場
- 一 神社佛閣
- 一 名所古跡
- 一 琵琶湖疏水

- 一 公園
  - 一 遊覽所附遊廊
  - 一 著名商店及市場
  - 一 重要物産
  - 一 官衙
  - 一 學校病院
  - 一 銀行會社新聞社
  - 一 各種協會
  - 一 京都名家
  - 附錄
  - 一 聯合府縣國
  - 一 聯合ノ理由
  - 一 聯合府縣ノ名勝社寺
  - 一 著名物産及旅店
- 此例則ニヨリ之ヲ編纂スルコトヲ初メ市事業トナスヘキカ請負事業トナスヘ

キヤノ説アリシカ遂ニ市事業トシ編纂部ニ附スルニ決シ十二月二十日委員會ニ於テ和文案内記ハ編纂部ニ一任シ其費用トシ廣告費ヨリ金參百五拾圓ヲ支出シ其綱領ヲ定ムル左ノ如シ

和文案内記編纂ノ件

- 一 編纂ノ事務ハ一切之ヲ編纂部ニ委託シ其費用トシテ金參百五拾圓ヲ廣告費ヨリ編纂費中ニ流用スルモノトス
- 一 編纂ノ方法并其体裁ハ別紙綱領例目ニ依ルモノトス  
但挿畫ハ畫者ヲ擇ハスト雖トモ可成淡雅ニシテ風韻ヲ帶ヒ且ツ木版摺ニ適スルヲ要ス尤モ寸法ハ長短廣狹ヲ問ハサルモ凡曲尺ニテ縱五寸横三寸五分内外ノ製本ニ適スヘキモノトス
- 一 編纂ニ從事スルモノ、内主任者一名ヲ定メ編纂方法体裁ニ關シ編纂接待兩部員ノ協議ニ應スルモノトス
- 一 編纂ノ期限ハ來ル二十七年十二月トシ脱稿ノ上ハ接待部員一覽ノ上其訂正ヲ爲スヘキ部分アリト認ムルトキハ編纂接待兩部員協議ノ上完成スルモノトス

但本文ノ期限内ト雖トモ便宜ニ依リ其一部分ツ、本文ノ如クスルコトアルヘシ

此方法ニヨリ編纂部ノ事業トシ其体例式樣ヲ起草シ編纂部ニテハ編纂員中野太郎ヲ其主任トシ編纂ニ著手セリ此時平安通志ノ事業正ニ頓忙ナル上更ニ京華要志ノ編纂ヲ加ヘ益々煩雜ヲ極ムルノミナラス其材料ニ確實ノモノ乏シク諸社寺其他ニ問合スモ充分ノ取調ヲ得ス且名勝舊蹟等ニ係ル書籍ハ已ニ數十年前ノモノニシテ維新ノ變更ヲ經其盛衰廢興一ナラス一々實地ニツキ探窮スヘキモ其取調ス又名家著名商店各種協會等ノ如キ其關係最モ重キヲ以テ其選擇ニツキ一々討議詳查ヲテ之ヲ記載セリ殊ニ皇居ニ關スルコトハ最モ慎重ヲ要スルヲ以テ一々圖書ニ徵シ或ハ事實ニ諳熟セルモノニ付之ヲ質問シ又草稿ヲ以テ補正ヲ求メ之ヲ編纂セリ其挿畫所ノ圖式ハ山城國全國ヲ以テ全体ノ大形ヲ示シ遊覽個所圖ヲ以テ遊覽ノ方位遠近ヲ示シ以テ觀客ニ便シ遊覽曆表ヲ附シ以テ其時日ヲ示シ聯合府縣圖ヲ附シ以テ其區域ヲ明ラシヨシ其繪圖ハ種々檢定ノ上其個所ヲ定メ京都ノ畫家ヲ撰ミ其長所ニヨリ畫題ヲ配付シ以テ揮毫ヲ托シタリ其題詞序文等モ夫々全備シ二十七年十二月全部成稿セリ以テ之ヲ委員會ニ提出セリ

定紙數ハ凡五百ペーシナルモ其記載ノ事項多クシテ成稿ニ及ヒテハ殆ソト二倍  
以上トナルヘク因テ委員ニテ各自ニ調査意見ヲ附シ更ニ刪修加除ヲ完成セリ  
其題名ハ之ヲ京華要誌ト定メ其製本裝飾等ニ至ルマテ高尙優美ナラシメシカ爲  
メ最モ意匠ヲ盡シタリ其印刷ハ當業者ニ入札セシメ商報會社ニ落札シ一千部ヲ  
印刷セシムルコトトナリ其附負證書ヲ徵シ全稿ヲ交附シ編纂部ヨリ出張校正シ  
日夜工事ヲ督シ四月ニ至リ製本全ク成リ其納本版權願等ノ手續ヲ爲シ京都市參  
事會出版トシテ委員長内貴甚三郎其代表者タリ特別製本ヲ以テ天皇皇后皇太后  
三陛下東宮及三皇女殿下ニ獻納シ平安神宮ヲ始メ其他官社巨刹官省貴顯紀念祭  
關係者ニ配附セリ又印刷已ニ竭キ需用尙ホ多キヲ以テ東枝吉兵衛ノ願ニヨリ其  
紙型ヲ下附シ且ツ正誤表ヲ附シ更ニ一千部ヲ印刷發賣スル事ヲ許可シ一部ニ付  
印稅貳拾錢ヲ收メシムルコトトセリ

公認案内記 英文案内記

二十六年四月十六日調査部會ガイドブック及ヒカード發行ノ事ヲ議決シ二十八  
日接待部ニガイドブック編纂ノ事ヲ附托ス五月一日接待部會ガイドブック編纂

ハ日本文ヲ先キニシ其成稿ニ因リ歐文ニテ翻譯スルコトヲ議シ爾後數回ノ熟議  
ヲ經テ十二月二十日編纂接待部會ヲ開キ歐文案内記ノ編纂ハ中村榮助ニ依頼  
シ同志社ニ聯合シ夫レヲ豫算ヲ出サシムルコトニ決シ十二月二十八日豫算案成  
リ種々討議ノ末第一豫算ヲ以テ市原盛宏ニ委託スルコトニ決ス二十七年一月二  
十三日委員總會契約案ヲ決シ市臨時事務掛小林精一郎ヲ以テ市原盛宏ニ協議ノ  
末二三訂正ノ請求アリ一月二十七日編纂接待部會訂正案ニ付討議ノ末其要求  
ヲ容レ修正加除スル所アリ決定セシ契約文左ノ如シ

契約書

英文案内記ノ編纂ニ關シ京都市參事會ト市原盛宏トノ間ニ左ノ條件ヲ契約ス  
ルモノトス

- 一 編纂ノ体裁ハ別紙編纂例ニ依ルヘシ
- 但シ小項目ノ加除ハ市參事會ノ承諾ヲ得テ之ヲ爲スコトヲ得
- 一 記事ハ一頁ニ付凡ソ四十行四十五字詰ノ割合ヲ以テ凡ソ三百頁以上トシ其  
内京都府下ノ記事ハ凡ソ二百頁以上トシ聯合府縣ノ記事ハ一府縣凡ソ五頁  
以上十頁以内トシ殘紙數ハ索引インブックノ統計ホキヤブリー等ニ用フ



但、聯合府縣トハ大阪愛知岐阜滋賀奈良兵庫岡山廣島香川三重トス  
一校閱ハ相當ノ學識經驗アル外國人(少クモ一名以上)ノ手ニ付スヘシ  
一編纂校閱成功ノ期限ハ明治二十七年中トス尤モ編纂ノ上ハ之ヲ參事會ヘ差  
出シ若シ該會ニ於テ意見アルトキハ多少加除サナスコトアルヘシ  
但シ本文ノ期限内ト雖トモ脱稿ノ上便宜ニヨリ其一部分ツ、本文ノ如ク  
ナスコトアルヘシ

一前各項ノ方法ニヨリ其編纂校閱等一切ヲ市原盛宏ニ委託シ金八百四拾圓ヲ  
京都市參事會ヨリ市原盛宏ニ交付スルモノトス

但シ金員ノ半額ハ本書脱稿ノ割合ヲ以テ三回ニ分ツテ授受シ跡半額ハ成  
功ノ上之ヲ授受スルモノトス

以上ノ契約按テ被托者市原盛宏ニ示シ異議ナキヲ以テ直ニ其編纂ニ著手スルコ  
トニ決シ市原盛宏ハ別ニ事務所ヲ開キ助手ヲ置キ編纂ニ著手シ其材料ノ不足ハ  
編纂部ニテ和文案内記ノ原稿及ヒ材料等ヲ貸附シ成ルヘク便宜ヲ與ヘ功程ヲ進  
メタリ挿圖ハ名勝ハ寫真石版トシ名産ノ織物陶器刺繡漆器等ノ製造所ノ景況ハ  
木版影畫トシテ之ヲ挿入シ其記事ハ大略和文案内記ニ同シキモ猶外國人ノ意向

需用ヲ考ヘ増加補成スル所アリ卷末ニインデックス(索引)ノ外ボキヤブリー、エン  
ド、シヨルト、フレイセス(單語及短語)ノ英和對譯ヲ附シ外人ノ便利ヲ希圖シタリ聯  
合區域外ニ外人ハ最モ馳稱スル日光長島等記載ノ儀アリシモ聯合區域ノモニ限  
リ其他ハ之ヲ記載セス十一月ニ至リ大略脱稿セシヲ以テ京都商業學校長大坪權  
六ニ校閱ヲ托シ其意見ニヨリ更ニ加除スル所アリ草稿已ニ定マリ出版ノ事ニ及  
ビ納本ノ最モ多キモノニ版權ヲ附與スルコトトシ營業者ニ入札セシメシニ奈良  
縣下添上郡奈良町坂田稔ニ落札シタリ其書名ハ「セイ、オフ、キヤ、ナル、ガイド、ブック、  
ツ、キヤ、ウト、エンド、ゼ、ア、リ、ド、ブ、レ、フ、ニ、ク、チ、ニ、アル、ス」(京都及聯合地方公認案  
内記)ト稱シ三月三十一日出版届ヲ爲シ四月十日ニ發行シ其版權登錄ハ委員長内  
實甚三郎名ヲ以テ願ヒ出テ之ヲ坂田稔ニ讓與スルノ手續ヲ爲シ製本成ル毎ニ漸  
時納本シタルヲ以テ直ニ四方ニ贈呈シ一千餘部ヲ頒布シ九月ニ至リ納本完了  
タリ

納本二千二百部完納シ其一千餘部ヲ願贈シ殘本凡一千餘部ハ不用ニ屬スルヲ以  
テ之ヲ公賣スルニ決シ十月十二日入札ヲ舉行セシモ評價不相當ニ低廉ナルヲ以  
テ之ヲ取消シ姑ク之ヲ市ニ讓賣スルコトニ決セリ

第七章 大極殿及ヒ平安京全部測定ノ件

平安京ハ實ニ千百年ノ久キナ經今ニ至リテ益々隆昌ナルモ延曆ノ規模ハ大ニ變更シテ大内裏ノ如キハ全ク其故蹟ヲモ存セス誠ニ無限ノ遺憾ト謂フヘシ莫根光世カ大内裏圖考證ヲ著シ、時モ其實蹟ニ於テハ之ヲ手ニ下スアタハス維新後三條實美公平安京ノ實蹟ヲ調査シ其四隅ニ標石ヲ立ツル志アリ京都府技師島田道生ヲシテ其事ヲ謀ラシメラレシニ端緒ヲ得ルアタハスシテ止ミシト云フ紀念祭執行ノ舉アルニ及ヒ京都府委員湯本文彦大極殿模造ノ事ヲ建議シ併セテ其菴址實測ノ案ヲ提出セリ其要ニ曰ク

平安京及大内裏ハ其規制秩然一定シ大小廣狹各繩尺アリ井々トシテ紊レズ一隅ヲ舉ケテ之ヲ覆スレハ則チ全局ノ規畫整然トシ見ルヘシ猶絶海遠洋中ニ於テモ一點ノ宿星ヲ得レハ經緯ノ度洋中ノ遠近之ヲ掌中ニ指スカ如キト一般ナリ苟モ延曆造營ノ舊址現存スルモノヲ得テ之ヲ起點トシ現時ノ實測圖ヲ經トシ延喜式ノ京程圖ヲ緯トシ測定推算スレハ延曆ノ規制座ヲ知ルヘシ夫レ大極殿ハ桓武天皇ノ特ニ叙念ヲ盡シ之ヲ造營シ華麗壯嚴以テ國家ノ正朝ト定

ヲ給ヒテ所ナレハ今回平安宮ヲ造營シ 帝ヲ鎮祭ヲ奉ルハ此地ヲ適當トスヘ  
シトス然レトモ今勢然ルヲ得サルモ其地ヲ荒穢ニ委シオクヘキニアラサレハ  
之ヲ測定シ永ク表章スル事アルヘシ此ノ便ヲ以テ平安京全部ヲ測定シ以テ當  
府ノ全形ヲ示サハ且ハ英主ノ大業ヲ明ニシ且ハ國史ノ遺補トナルヘシト因テ  
其實測方法ヲ立ツ

- 一 東寺ノ南門ハ古來動搖セサルヲ以テ之ヲ起點トシ九條通ノ外垣ヲ求ム
  - 二 同所ヨリ式ノ丈尺ヲ以テ朱雀大路ト羅城門中心トヲ求ム
  - 三 同所ヨリ北上ノ式ノ丈尺ヲ以テ朱雀門ノ中心ヲ求ム
  - 四 同所ヨリ大内裏朝堂院全部ノ舊址ヲ求ム
  - 五 堀川西屋ヨリ西行ノ式ノ丈尺ヲ以テ大極殿舊址ヲ求ム 此外數條ヲ  
レトモ尋ス
- 委員會ニテ討議ノ上之ヲ可トシ紀念祭費ノ内貳千圓ヲ大極殿舊址保存費トシ内  
貳百圓ヲ實測費ニ充テ此ノ方法ニヨリ京都府屬高田平次ヲシテ實測ニ著手セシ  
メ委員モ屢々之ヲ檢討シ第一ニ東寺南門ヨリ起リ朱雀門ノ中心ニ及ヒ又其ヨリ  
東寺ノ金堂ノ中心ト西寺蹟金堂ノ舊址ヲ求メ羅城門中心ヨリ北上シ朱雀門ノ中  
心ヲ求メ其ヨリ應天門會昌門等ニ及ヒ大極殿ノ舊址ヲ求メテ又堀川ハ九太町

以上ハ凡其廣サ延喜式ノ丈尺ニ合スルヲ以テ之ヲ動搖セサルモノト認メ其西屋  
ヨリ式ノ丈尺ヲ以テ測定シ大極殿ノ遺蹟ヲ求メテ其集點ハ則チ上京區千本通  
下立賣下ル小山町ノ西側ノ邸地ト葛野郡朱雀野村大字聚樂廻リ小字鷲籠ノ兩地  
ニ亘レル所ニ當リ其地ハ舊來土中ヨリ碧瓦ノ殘片又大基ナトノ出ツル事アリ  
テ大極殿ノ跡ト稱セシ所ナリ又羅城門ノ舊址ニ當ル所ハ字ヲ來生ト云ヒら  
イト呼フ朱雀門趾ニ當ル所ノ小溝ヲみみつ川ト云フ即チ耳敏川ノ轉訛ナルヲ知  
ル如此符合スルヲ以テ此地大極殿ノ遺蹟ナルヲ考明セリ已ニ其地ヲ得シヲ以テ  
更ニ此便ヲ以テ進シテ平安京全部ヲ測定スルコトナリ實測圖ト式ノ京程圖ト  
ニヨリ精密實測セリ郡部ノ如キハ實測圖未タ備ラサルヲ以テ更ニ其圖ヲ作り市  
郡ヲ合シタル二千五百分ノ實測圖ヲ製シ之ヲ墨書墨線トシ其上ニ朱色ヲ以テ平  
安京及ヒ大内裏全部ヲ測定シ得ル所ニ從ヒテ之ヲ畫シ其舊址ハ朱色ヲ以テ之ヲ  
記入シタリ數百年ノ後ニ在リテ數百年ノ上ニ溯リ考定セシコトナレハ猶多少ノ  
差異ハ免カレサルヘキモ其大体ニ至リテハ平安京及大内裏ノ規制ト著名ナル實  
蹟トヲ見ルニ足リ此圖ハ國史參證上大ニ便利ナリ與フルニ足ルヘキモノニシテ  
紀念祭中特別ノ事業ヨリ事ハ平安通志ニ記載シテ特ニ此ニ抄録セリ

但平安通志ニ挿入セシ定測圖ハ此大園ヲ縮寫セシモノニテ八千三百分ノ小圖ニ過キス故ニ記入ノ個所モ略セシモノ多キヲ免カレサルナリ

第八章 大極殿遺址保存并建碑ノ事

大極殿ハ之ヲ岡崎町ニ建築スルコトニ決定スルヤ大内裏舊址ナル大極殿遺蹟ハ別ニ之ヲ保存シ永ク表章スル爲メ大碑ヲ建設スルコトナリ其調査ニ著手セリ其事業ハ舊址考證碑石形式及ヒ碑文ハ編纂部ニテ之ヲ掌リ土功及ヒ建碑ノ事ハ土木部ノ負擔タリ其舊址ヲ實測シ上京區小山町西側ト葛野郡朱雀野村大字聚樂廻リ小字鶴籠ト兩地ニ亘ル地ニ決定セシカハ(事ハ第十章ニ詳カナリ)其地面ヲ市ニ買收シ此ニ大碑ヲ立テ且記文ヲ刻シ其來由ト其他重要ノ舊址ヲ表スルコトトナリ其碑文ハ編纂部主事湯本文彦ニ之ヲ草セシメタリ其地面ハ大極殿舊址ニ當ル地坪ノ内面積三百二坪三合二勺ト之ニ通スル道路ト合シテ五百坪六合七勺ヲ金四百五拾六圓四拾錢八厘ニテ收買セリ其地ハ大殿ノ在リシ所ナルヲ以テ本ト粘土ヲ以テ築成シタル者ノ如シ近年覆掘シテ其土ヲ採リ其跡ヲ填メテ畑地トセシヲ以テ甚タ汗下ナルヲ以テ大ニ盛リ土シテ之ヲ平均シ中央即チ凡ソ高御座ノ在リシ跡ト認ムル所ニ四間ニ五間高三尺ノ臺ヲ築キ版石條石ヲ以テ築成シ石欄ヲ設ケ南面ニ五級ノ石階アリ其上ニ古松ヲ植ウ其碑ハ天然ノ巨石ヲ樹シルコト

ト各地ヲ搜索シ凡大石ヲ産スル地ハ之ヲ遍クセシモ適當ノ材ヲ得ス已ニ石材  
 ナクレハ已ヲ得ス木標ヲ立テ其面ニ大極殿遺蹟碑ト書シ其側ニ木牌ニ碑文ヲ書  
 ヲ之ヲ掲ケ置キ銅碑ヲ鑄造セテ以テ不朽ヲ謀ルヘント決シ更ニ美術意匠ニ富  
 シ人ヲ擇ミ之ヲ委員トシ其式形等ノ考案ヲ托シタリ美術工藝學校長今泉雄作ノ  
 考案ニテ已ニ其式形設計成リシカ之ヲ鑄造スルニハ百餘日ヲ要スヘク到底急速  
 成功スヘカラサルヲ以テ更ニ白川石ヲ以テ巨大ナル方柱ヲ建テ其配文ハ別ニ石  
 ニ刻シ之ヲ其傍ニ立ツルコトトシ二十八年十二月十九日委員會ニテ之ヲ決議シ  
 參事會ニ合議シ十二月二十三日市會ニ附シ之ヲ議決セリ

市第百一號

京都府京都市明治二十八年年度歲入出追加豫算

歳出

一金千七百八拾九圓四拾五錢

本費ハ本年度豫備費ヲ以テ支辨シ紀念祭諸費中大内裡遺蹟保存費ニ於テ  
 整理スルモノトス

京都府京都市明治二十八年年度歲入出追加豫算表

歳出		臨時費	
費目	金額	附	記
第四款 紀念祭諸費	一、七八九、四五〇		
第三項 大内裡遺蹟保存費	一、七八九、四五〇		

大極殿遺蹟碑別紙圖之通千九百五拾九圓八拾五錢ヲ要ス  
 内百七拾圓四拾錢ハ本年度殘金アルヲ以テ之ヲ扣除ス

其事已ニ決セシメテ石工大西音五郎ニ其工事ヲ命シタリ

碑石 白川石方三尺長一丈四寸五分方柱形碑臺同石高三尺

面 大極殿遺蹟

背 明治二十八年十月二十二日 京都市參事會

副碑 和泉石 高三尺 廣三尺五寸厚一尺五寸

碑基 東西五間南北四間高三尺版石條石ニテ築成ス南面石階ヲ設ク

大極殿遺蹟碑記

延曆十三年 桓武天皇相攸此地奠建新都號曰平安京今京都即是也爾來一千  
 百年以至今日實爲神州之舊京宇內之名都矣京都市民謹仰 聖德欽 大勳新營

神宮行祭事以舉慶祝之典事 開詔特奉安 桓武天皇之靈列官幣大社號曰平安神宮一準 攝原神宮於是京都永爲 宗廟之地履襟帶山河益發光輝是誠國家之盛典而京都之光榮也夫大極殿 天皇敕念所注森嚴宏莊爲國家正朝實列聖之所登極億兆之所瞻仰也然其蹟墮滅識者傳焉乃據圖志按式程考查測定得其遺趾建石以表之且記紫宸殿等遺趾及京城大內四至以詔後昆苟按此碑以徵之則延曆規模可得而詳矣

明治二十八年

京都市參事會

紫宸殿 長八十五丈

應天門 正面百二十一丈

太政官 巽九十七丈

大內裡四至

北 偉鑿門二百八十九丈

南 朱雀門百七十一丈

東 待賢門百九十二丈

西 藻壁門百九十二丈

平安城四至

北 一條大路二百九十五丈

南 羅城門千四百五十二丈

東 京極七百四十八丈

西 京極七百四十八丈

書ハ山田永年

長門左

ニ囑托シ大字ハ弘法大師ノ眞跡ニ效ヒ之ヲ書シ細字ハ

同大師ノ筆意ヲ以テ之ヲ書スルコトナセリ

二十九年五月建碑竣成セシヲ以テ府知事以下市參事會員市會議員其他此事ニ關スルモノ此ニ會シ建碑式ヲ執行セリ夫レ此地ハ平安京ノ正殿ナレハ一旦荒廢ニ屬セリト雖トモ今此大碑ヲ建テ其事ヲ勸メテ以テ不朽ニ垂ル萬世ノ後其信ヲ考フル所アルヘキナリ

又羅城門舊址ト測定セシ葛野郡大內村字來生ノ地内羅城門ノ中心ト認ムル地ニ標石ヲ立テ羅城門遺址ト刻シ之ヲ表シ又大極殿遺址ハ人家ノ裏ニ屬シ公衆ノ知リカタクキヲ以テ其入口ナル千木下立賣下ル小山町ノ西側ニ標石ヲ立テ大極殿遺址ノ入口ヲ表シタリ

### 第九章 社寺名勝保存補助

遷都記念祭及ヒ勸業博覽會開設ノ議既ニ決シ京都府下各社寺等皆此千載一時ノ好機ニ際シ祭典法會及寶物展覽ヲ舉行スルノ計畫アリ二十八年ノ京都ハ實ニ四海輻湊萬邦會同ノ觀アリ京都固有ノ名勝舊蹟大社巨刹ノ壯觀及ヒ之ニ屬スル所ノ美術工藝ノ名品ヲ内外ニ披露スルハ正ニ此時ナリ然ルニ維新以降時勢一變古社寺等ノ多數ハ保存方法確立セス其修繕ヲ爲スアタハサルヨリ荒頽殘破年々逐フテ甚シク千古ノ名蹟百世ノ偉觀ハ變シテ狐鼠ノ窟ト爲リ名寶珍器モ保存維持ノ道ナカラントスルハ實ニ歎惜スヘキノ至リナルヲ以テ此紀念祭執行ヲ期シ其主管者ヲ獎勵シ其修繕保存ノ案ヲ立テシメ其重要ノ個所ト其方法ト資金トヲ檢シ市費ヲ以テ之カ幾分ヲ補助スルコトトセントシ二十六年三月十二日臨時委員會紀念祭事務分科ヲ定ムルニ及ヒ土木部ヲ置キ諸般建築ニ係ル事務ノ外社寺修繕ノ設計ヲ管掌スルコトニ決シ七月十六日委員會左ノ施行概則ヲ議決セリ

#### 社寺及勝地修繕補助費施行概則

本費ヲ以テ補助スヘキモノハ次條ニ掲クル處ノ標準ニ該當スルモノニ限ル

一 桓武天皇ニ御由緒ノ歴然タル最古ノ建造物ニシテ大破セルモノ  
 一 古來ノ由緒正シクシテ著名ナル建築アルモ大破ニ及ヘルモノ  
 一 本市接近ノ名勝中最モ著名ナルモノニシテ目下破損スルモノ  
 前條ノ標準ニ該當スルモノト雖トモ檀徒又ハ有志者ノ勸財ヲ以テ之レカ修繕  
 ニ堪ユルモノ、如キハ補助セサルモノトス  
 七月二十一日市會二十七年年度豫算表中紀念祭諸費ヲ議シ土木費目中古社寺及ヒ  
 勝地修繕補助費トシテ金壹萬圓ヲ支出スルコトニ議決ス  
 是ヨリ先キ修繕費補助ノ議委員會ヲ通過セシヨリ直チニ府下各社寺中桓武天皇  
 ニ特別ノ御由緒アルモノヲ首トシ其他數百千年以上ノ古建築ヲ以テ名アルモノ  
 ノ主管者ニ通知シ其修繕設計見積書ヲ差出サシメ主任委員ハ其當否ヲ鑑査シ正  
 當ノ理由アルモノニ限り其費用金額ノ幾分ヲ補助スルコトトシ其他ハ各社寺ニ  
 テ勸化寄附ヲ募集シ直ニ其工事ニ著手セシメ主任委員ハ時々現場ヲ巡視督察シ  
 其成績ニヨリ漸次補助金額ヲ下附シタリ  
 其第一回補助ハ明治二十七年二月二十六日市會決議熊野神社外十四個所ノ社寺  
 及ヒ勝地等ニ保存資金ヲ支出シ並ニ左ノ諸件ヲ約シタリ

一 既定ノ設計ヲ變更シ工事ヲ縮少又ハ粗造ナラシムルニ於テ一旦其補助ヲ取  
 消スヘシ  
 但豫メ參事會ノ認可ヲ經ルトキハ此限リニアラス  
 一 工事竣成ノ期ヲ豫定セシメ故ナク之ヲ延滞セシムルトキハ前項ノ處分ヲ爲  
 スヘシ大報恩寺菩提院ニ對シ  
 アハ前項及木項ヲ除ク  
 一 補助金ハ工事竣成ノ上下附スルヲ普通トシ時宜ニヨリ工事ノ出來形ニ應ジ  
 其幾分ヲ假渡シスルコトアルヘシ  
 一 工事中ハ臨時掛員ヲ派遣シ檢分ヲ爲サシムルコトアルヘシ  
 右ハ第一回補助ノ時各社寺ニ特約シタルモノニシテ爾後數回ノ下附皆是ニ同シ  
 其配付金額ノ多寡ハ由緒ノ厚薄修繕ノ緩急設計ノ大小等ニヨリ前後凡六回ニ分  
 チ漸次之ヲ議決シ金額千五百圓ヨリ貳拾圓ニ至リ等差アリ其多額ナルモノハ工  
 事ノ進度ニ應ジ數回ニ分チ之ヲ下附シタルモノアリ二十七年五月二十六日ヨリ  
 二十八年五月ニ至リ補助ノ個所凡三十三所ニテ豫算金額壹萬圓ニ不足ヲ告ケル  
 ヲリ更ニ豫備費中ヨリ金貳百圓ヲ支出補足シ總計金壹萬貳百圓ニ達シ其工事ハ  
 一二ヲ除キ大抵紀念祭期日ニ先チ竣功セリ



社寺及勝地保存費補助額一覽表

名稱	指定個所	補助金	名稱	指定個所	補助金
熊野神社	拜殿外ニケ所	三〇〇〇〇〇	若王子神社	本社及境内風致	四〇〇〇〇〇
金地院	方丈	六〇〇〇〇〇	慈照寺	銀閣	六〇〇〇〇〇〇
高臺寺	法堂靈舍	三〇〇〇〇〇〇	廣隆寺	太子堂	六〇〇〇〇〇〇
平等院	鳳凰堂内部裝飾	三〇〇〇〇〇〇	東福寺	山門	一五〇〇〇〇〇〇〇
叡山道	變宕部入瀬村・山上黒谷青龍寺迄	一五〇〇〇〇〇	田村將軍塚	修墓	二〇〇〇〇〇〇〇
大報恩寺	本堂内陣	五〇〇〇〇〇〇	勝持寺	本堂外敷ケ所	一〇〇〇〇〇〇〇
神護寺	大師堂	五〇〇〇〇〇〇	萬福寺	法堂山門外敷ケ所	一五〇〇〇〇〇〇〇
青蓮院	寢殿再建	五〇〇〇〇〇〇〇	長岡天満宮	本社拜殿	五〇〇〇〇〇〇〇
妙法院	大圓舞井ニ方丈	五〇〇〇〇〇〇〇	西寺	再建	五〇〇〇〇〇〇〇
金藏寺	全體	五〇〇〇〇〇〇〇	長岡舊都遺跡	保存建碑	二〇〇〇〇〇〇〇〇
宇治上神社	本社拜殿	一〇〇〇〇〇〇〇	鞍馬寺	全体保存	五〇〇〇〇〇〇〇
醍醐寺	金堂及三寶殿	三〇〇〇〇〇〇〇	淨蓮華院	佛影堂外一ケ所	五〇〇〇〇〇〇〇

合計金壹萬貳百圓

神泉苑	苑池浚渫	五〇〇〇〇〇	高山寺	石水院本社外敷ケ所	三〇〇〇〇〇〇
百川公墳墓	修墓	一〇〇〇〇〇〇	仁和寺		一五〇〇〇〇〇
建仁寺	方丈	二〇〇〇〇〇〇	法金剛院		二〇〇〇〇〇〇
南禪寺	方丈	五〇〇〇〇〇〇			

此外各社寺ニテ其金員ヲ支出シ又ハ信徒有志者ヲ勸化寄附セシメ金額ハ合計金壹萬四千九拾餘圓ニシテ社寺ノ有名ナルモノ概テ修理ヲ爲シ大ニ其觀ヲ改メタリ此外市費ノ補助ヲ仰カスニテ修理ヲ加ヘシ社寺亦少カラズ其金額蓋シ數萬圓ニ及フヘシ

舊址古墳ノ特別ノ由緒アル者ニシテ今回始メテ表彰シタル長岡宮城遺跡及ヒ田村磨百川公墳墓地三所ハ特ニ其建設願末ノ大畧ヲ左ニ録ス

長岡宮城遺跡

長岡宮城ノ遺跡ハ千餘年ノ久キ既ニ變替湮滅シテ尋ヌヘカササルニ至ルト雖トモ土地ノ名稱土中ヨリ發掘ノ遺物等ニ由リ其遺跡ヲ想像シ得ヘキコト古來其地

方ノ口碑ニ存シ又伴蒿隈ノ關田耕筆ニ記述セシコトアリシモ未タ確證ヲ得ス單ニ歴史家ノ臆柄ニ供スルニ過キサリシカニ二十八年延曆奠都千百年紀念祭舉行ニツキテハ名勝舊蹟等ノ由緒アルモノハ補資ヲ與ヘ修繕築營スルノ議有リシヨリ二十六年十一月其地方ノ有志者岡本爺平岡崎省吾等ヨリ遺趾表彰ノ計畫ヲ立テ一碑ヲ建設シ并ニ周圍ノ風致ヲ作り二十八年ニハ祭典ヲ舉行セントシ其費用ヲ凡金八百六拾七圓ト概算シ半額補助ノ事ヲ願出テタリ二十七年一月三十日委員總會ニ於テ右遺跡ハ歷史上ノ關係多ク且ツ編纂上ニモ必要アルニ付其調査ノ事ヲ編纂部ニ依托スルコトニ決セリ

長岡宮城遺趾取調書

長岡宮城遺趾調査ノ依頼ニヨリ編纂部ニテ種々ノ圖籍ヲ考證シ乙訓郡神尾村岡本宣忠カ從來右遺跡ノ事ニ付取調タル長岡宮城私考一冊ヲ徵シテ之ヲ考案トシ去三月十八日編纂部主事湯本文彦編纂員中野太郎現場ニ出張シ岡本宣忠ノ案内ニテ字大極殿ト稱スル實地ヲ踏査シタリ其位地ハ乙訓郡羅冠井村ニテ向日明神鳥居前即チ西國街道東二町許ニ在リ菴播磨街道ニ接ス菴反別凡三町

七反步現今ハ菴字地ノ大部分ヲ分割シ名稱ヲ變シタルヲ以テ大極殿ト稱スル區域ハ凡ニ反許ノ茶園ニシテ四隣ハ竹樹林藪頗ル荒蕪ニ風シ俄カニ辨識スヘカラス更ニ郡役所ニ至リ郡書記某及ヒ右遺跡取調ニ關係アル同郡寺戶村岡崎省吾等ニ面會シ左ノ件々ノ取調方ヲ囑シタリ

- 一字大極殿近傍ノ字地
  - 一字大極殿反別
  - 一菴水帳年代共
  - 一字大極殿ト近傍水田トノ高低
  - 一古瓦ヲ發掘シタル場所
  - 一東ハ桂川南ハ淀川ヘ距離凡幾町
  - 一字地中ノ古名ニ屬スル者ノ位置
- 其後四月三日ニ至リ岡本宣忠岡崎省吾來部シ其取調書ト實測圖面ヲ出シ更ニ水帳等ニ就テ考案ヲ續述セリ編纂部ニテ此等考案物件ニ就チ實地踏査ノ形跡ニ考ヘ宮城遺跡タルノ確證ヲ得タリ其要左ノ如ク
- 一右字大極殿ヨリ發掘セル古瓦片ハ殘缺割落瑣瑣色ヲ留メスト雖トモ聚樂廻

リ大極殿遺趾ノ瓦片ト製作上質文藝等殆ト同一ニシテ其同年代ノ物タルヲ知ルヘシ

一右字大極殿ノ四圍ノ字地ニ就テハ字大極殿内ニ小字祓所アリ正東ニハ正面アリ東北ニ御鹿御屋敷御垣本アリ東南ニ宮ノ前アリ西南ニ島ノ院島坂及西京アリ島ノ院島坂ハ屢々史書ニ見ニ西京ハ其位置ニ因テ考フルモ東西京ノ遺跡ト認ムヘシ西京ノ傍近ニ半ヶ辻アリ當時半畝ノアリシ古跡ト考ヘラレ西北ニハ鞠場射場垣内アリ鞠場ハ蹴鞠場ノアリシ古跡射場垣内ハ射梁ノアリシ遺跡カ尙ホ乾位ニ當リ猪隈院アリ字大極殿ヨリ宛モ亥ノ隅ニ中ル皆證據ト爲スニ足ル

一土地ノ形勢ヲ考フルニ傍近ノ水田ヨリ高キコト一丈五尺ニテ東南敞開平野數里宮城ヲ敷設スルニ足ル又道路河川ニ就テハ現時ノ西國街道及ヒ播磨街道皆接近セリ河川水路ハ古今大變動アリシニ相違ナキモ桂川ヘハ東ヘ凡ソ二十五町淀川ヘハ南ヘ五十町ナリ延暦七年秋九月庚午詔曰朕以躬身恭承鴻業水陸有便遷都長岡云云同十月丁亥詔曰朕以水陸之便遷都茲邑云云ト續日本紀第三十卷ニ在リ兩回ノ聖詔皆水陸ノ便トアルニ符合ス

此外尙ホ頓瑣ノ證據アルモ畧ス之ニ因テ考フルニ右字大極殿ノ地ハ延暦三年十一月十一日奈賀京ヨリ遷都アリシ長岡宮城ナル大極殿ノ遺跡ト定ムル事ヲ得ヘシトス六月四日委員會ニ於テ右取調書ヲ是認シ金貳百圓補助ノ事ヲ議決シ市會ノ議決ヲ經テ之ヲ出願セシ有志者等ニ通知シタリ有志者ハ右可決ノ前ヨリ地方ノ富豪名望家等ニ謀リ其義捐金ヲ募集シ直ニ土地ノ買收建碑ノ工事等ニ著手シ二十八日十月ニ至リ工事畧ホ成リ其十九日祭典ヲ修メ之ヲ落セリ其設計ノ大概ハ右字大極殿ト稱スル地及ヒ同所ヨリ直ニ向日町街道ニ通スル道路ヲ開拓スル爲メニ要スル地ヲ合セ三百五坪ノ地ヲ買收シ敷地ノ中央ニ方十二尺切石基礎及ヒ崩レ石垣ヲ築キ其上ニ方一尺五寸高十五尺ノ白川石碑ヲ南面ニ建テ碑面ハ山階晃親王筆篆體長岡宮城大極殿遺趾ノ九大字裏ニ明治二十八年二月同志者相謀建此碑々面題字大勳位晃親王之書也山階宮家令正六位勳五等黒岩直方謹記ノ四十五字ヲ二行楷書ニ刻シ周圍及ヒ向日町ニ達スル道路ニハ櫻楓ヲ雜植シ風致ヲ點綴セリ

### 藤原百川公墓修營ノ件

藤原百川公ノ墓ハ延喜式ニ相樂墓在山城國相樂郡兆域東西三丁南北二丁守戸一烟遺墓トアリ其夫人ノ墓ハ式ニ山城國相樂郡附太政大臣墓内無守戸遺墓トアリ公ハ桓武帝定策ノ元勳ニシテ淳和帝ノ外祖父ナルヲ以テ其墓モ特ニ之ヲ重セラレ其葬費ヲ官給シ延暦十六年墓田一町六反ヲ賜ヒ淳和帝即位ニ及ヒ公ニ正一位太政大臣夫人ニ正一位ヲ贈リ其墓ヲ掃ハシテ後十陵五墓ノ列ニ加ヘ荷前例幣ニ預カレリ其崇重此ノ如クナリシモ物移リ星換リ其所在ヲ知ルモノナシ山城志山州名跡志記スル所アルモ亦確カナルヲ得ス有識ノ士常ニ以テ憾トス今年紀念祭ヲ行フニ及ヒ公ハ延暦ノ功臣ナルヲ以テ其墓ヲ探求シテ之ヲ修理表彰セント欲シ其郡ノ有志者百方苦心之ヲ搜索シ相樂村大字吐師ノ小字白山ト小字城ノ西ニ於テ古墳二所ヲ發見シ有志總代若井忠治吉岡幸吉藤井良明村長吉村清左衛門等ヨリ檢定ノ事ヲ願出テ又同郡椿井村ニモ一古墳アリ是レ亦百川公ノ墓ト稱スル由ニテ同村有志者西村直三郎等亦同シク檢討ヲ請ヘリ因テ編纂部主事湯本文彦ヲシテ出張檢索セシム其實地檢索セシ報告ニ曰ク

贈太政大臣正一位藤原百川公墳墓ノ事ニ付テハ過日復命書ニ述ヘシ如ク阿村所在ノ墓井ニ有志者ノ陳述共ニ證憑ニ乏シキヲ以テ更ニ郡長松野新九郎ニ協

議シ其調査方法ヲ以テ十分詳究スヘキ旨ヲ示指セシ所阿村トモ其方法ニヨリ其兆域ヲ畫シタル圖面ヲ製シ之ヲ呈出セシモ之ニ屬スル證憑ノ確カナラズシテ之ヲ以テ直ニ判定ニ資スルニ足ラサルコトヲ雖然到底此上材料ヲ得ヘキ見込ナキヲ以テ今得ル所ノモノニヨリ試ニ之ヲ述ヘシ

一吐師村在ル所ノ古墓凡三所

### 白山古墓

村人ノ初メ出願セシ所タリ吐師村ノ稍々西ニ當レル小阜上ニ在リ此地ハ小阜點々相屬シ其數頗ル多シ皆沙利質ニシテ青松之ニ生ス墓ハ其阜頂ニ在リ南面スル者ノ如ク兆域ヲ畫スレハ二墓共ニ其中ニ入り南北別阜ヲナシ相層リテ距離凡二十間許アルヘシ其側埋ムルニ植物ヲ以テシ形式共ニ千年以上ノ古墓タルハ信スヘキ者タリ有志者云フ其墳ハ大ナル割石ヲ以テ築成シ南北八尺東西四尺墳内充ツルニ朱土ヲ以テス檢探ノ際此物ヲ發見シ速カニ故ノ如ク埋メタリ山城志ノ長塚トハ是ナリ其形南北ニ長キヲ以テ長塚ト稱スルカ然レトモ山城志ニハ今稱長塚墓群圓塚各三トアリ然レハ長塚ト七ツ塚ト訓讀相近キヲ以テ混同シテ七塚ノ圓塚ヲ以テ長塚ノ

側ニアリト誤リシ者ノ如シ

中條古墓

字中條ニ在リ七ツ塚ト稱ス古來七塚アリシカ今之ヲ夷ケ四ツヲ存ス田圃中ニ點在ス其大ナル者ハ近日發掘セシ者ノ如シ境内ハ泥水之ニ滿チ其下周池アリシ者ノ如シ土人ノ説ニハ此墓ヨリハ古墳物出テコトアリト云フ共ニ千年以外ノ古墓ナレト其相集マルヲ以テ式ノ百川公墓ノ兆域ニ合セス故ニ之ヲ取ラス

城西古墓

吐師村ノ西南田圃中ニ在リ二墓相距ル僅ニ十間計其大ナル者ハ周圍凡五六間高二三尺小ナル者之ニ半ス其方向詳ナラス懸竹野草叢生シ其間古石塔散亂セリ有志者ノ説ニヨレハ古時ハ頗ル大ナル塚ナリシカ漸次開拓今纔ニ存セリ此地ハ古代建物アリト見エ田中時々古礎廢瓦ヲ出シ又ハ古樹ノ朽株アリ其石塔ハ或ル古寺ノ廢物ヲ陳テシナリト平野素壽ノ撰ヘシ郡圖ニ百川公墓ト題セルハ此ヲ指ス者ノ如クナルモ是ハ山城名勝志山城名勝志等ニ記スル所ヲ集メテ配置セシモノニテ後世ノ作タルニ過キサル

ヘシ山城名勝志ニ記スル所ハ此墓ヲ指スニアラスシテ此ヨリ西南歌姫道ニアル古墳ヲ指セシ者ノ如シ

一椿井村古墓一所

字三階ニ在リ巨大ナル圓塚ニシテ周圍凡二町餘高凡七八間南面スル者ノ如シ上ハ開拓シテ茶畠トナシ西南ニハ雜樹叢生シ背後ニ周池アリシ者ノ如シ有志者ノ説ニ古來大塚ト稱ス明治後開拓セシ時無數ノ川石ヲ平敷シタルモノアリ木津今井氏ノ藏高麗寺近傍圖ニ百川公墓ト題スルハ即是ナリト因テ式ノ兆域ニヨリ之ヲ畫シ其内ニツキ圖面ヲ作シシモノニ塚南ニ當テ小阜アリ吉祥山ト字ス是レ後相樂墓ニシテ公ノ夫人ノ墓ナルヘシト云ヘリ從前村内山年貢六斗五升餘ノ内ニテ此兩塚ニ周垣ヲ作り來レリ明治七八年迄ハアリシカ其後廢シタリト云フ

兩村ノ古墓四所ノ内相樂墓ニ疑似ノ者三所ニシテ其考證スヘキ材料ノ乏シキハ則一ナリ今試ニ其實質ト實形トニツキ之ヲ論セン

椿井村古墓ハ自然山ニアリ其形ヲ作りタル圓塚ニシテ背後周池ノ形ヲ存セリ必ス高貴ノ墓タルヲ證スヘシ然シテ其百川公トナスハ今井ノ古圖ニ

ヨルノミニシテ今井ノ古圖ハ嘉祿云々ノ字アルモ幾回傳寫セシ者ニシテ  
其内ニハ挽入ノ附記アルヲ免カレス大塚ノ東南ナル古塚ヲ山田石川厩墓  
ト爲スカ如キ是レナリ公ハ大和國十市郡山田村ノ山田寺ニ於テ宛死シタ  
レハ何ソ此遠隔地ニ葬ラシヤ或ハ本郡ニ山田村アルヲ以テ故ヲニ此記入  
ヲ爲シタルヤノ疑ナキコトアタハス又夫人ノ墓ト稱スル者モ頗ル憑信ニ  
苦シム所アリ但其古來周垣ヲ作り來リシト云フハ頗ル考證ノ一助トナル  
ヘキヲ以テ更ニ其起因ヲ調査スヘキヲ有志ニ囑シタルヲ以テ其有無ニ因  
テ判定サ下サント欲ス

吐師村城西ノ古墓ハ山州名跡志ニ記スル所ニ合スルト云フ說アレト是レ  
ハ誤解アルヲ免レンス名跡志ニハ阿塞トモニ其名ヲ記シ其下ニ今不詳又ハ  
不詳ト記シ其地ノ判然セサルコトヲ證セリ其右此所當國坤ノ宛竟也土師  
坤三町許ニ當國ト大和ノ界アリ彼國至歌姫トアルハ此相樂村ハ當國即山  
城國ノ坤位ノ宛竟ニシテ土師ノ坤三町許カ國界ナリト云フニ過キスツテ  
相樂墓トハ一モ關係ナキ者タリ故ニ○點ヲ以テ之ヲ別ナタリ今之ヲ以テ  
此墓ニ當ツルハ其見解ヲ誤ルヲ免カレンス此ニ依テ之ヲ判スル時ハ此墓モ

證憑ノ實ルヘキナシ  
白山古墓

是亦證憑ノ確タル者ナシ但シ地形ヲ以テ之ヲ察スレハ百川公ノ墓ト稱ス  
ルモ不可ナキカ如キノモ或ハ公ハ參議ヲ以テ薨ス其墓如此巨大ナルヘカ  
ラスト云フ說アリ然レトモ百川公ハ光仁桓武兩朝定策ノ元勳且其女桓武  
帝ノ妃トナリ淳和帝ヲ生ム帝其外祖ノ親ト國家ノ大勳トニ對シ極官崇位  
ヲ贈リ其褒贈ヲ極シ延曆十六年ニハ勅シテ相樂郡ニテ墓地一町六反ヲ賜  
ヒ天長八年十二月ニハ特ニ勅シテ其相樂ノ墓ヲ掃ハシメラル故ニ其薨時  
ハ參議ナルモ其後ノ殊遇追崇此ノ如キヲ以テスレハ唯一公卿ノ墓ヲ以テ  
之ニ准スヘカラサルナリ十陵五墓ノ制立ツヤ之ヲ其數ニ加ヘ荷前ノ例幣  
ニ預リ延喜ノ朝ニ至リテ絶エス其墓ノ高大ニ過クルヲ以テ未タ必スシモ  
百川公墓ニアラスト斷スヘカラサルナリ其他ニ至リテハ各所トモ判定ニ  
實スヘキ證憑ヲ得ス然トモ百川公ノ偉勳大烈其墓ヲ湮沒ニ委スルハ實ニ  
痛哭スヘク幸ニ此舉アルニ際シ精密考證其荒穢ヲ去リ其圯壞ヲ修メ永ク  
標章スル所アラントスルハ實ニ好機會タルヲ以テ十分ノ力ヲ盡サント欲

ス足立諸陵寮頭ハ曾テ陵墓探検ノ爲メ數々其地ヲ巡回シ大橋長憲之ニ隨  
行シ古墓ヲ搜索セシコトアルヲ以テ此事狀ヲ具シ聞合中ニ在リ其回答ヲ  
待テ更ニ陳述スル所アラントス

明治二十七年六月十日

百川公墓實地調査出張員

湯本 文彦

又有志者ノ請ニ應シ畑道名半井眞澄平野素壽等モ同シク實地ヲ檢シ各其考案ヲ  
出セリ其説ハ城ノ西ノ古墓ヲ以テ公及夫人ノ墓ト考定セリ曰ク  
藤原朝臣百川公ハ寶龜十年七月九日參議中衛大將兼式部卿從三位ニテ薨セラ  
ル時ニ年四十八同夫人尙繼從三位藤原氏ノ薨去ハ年月日詳ナラスト雖モ公ニ  
後レテ薨セラレタルコトハ百川公墓域内ニ葬ムラレタルヲ以テ知ルヘシ後弘  
仁十四年五月公ニハ太政大臣正一位ヲ贈ラレ夫人藤原氏ニハ正一位ヲ贈ラル  
是レ淳和天皇ノ生母贈皇太后族子ハ百川公ノ第一女ニシテ即天皇ノ外祖母  
タルヲ以テナリ扱百川公及同夫人ノ墓ハ延喜諸陵式ニ相樂墓山城國相樂郡ニ  
在リ兆域東西三町南北二町守戸一畑ト見え後相樂墓贈太政大臣墓内ニ在リ守

戸ナシトアリ然ルニ中古其所在湮滅シテ詳ナラス現今公ノ墳墓ナリト稱スル  
モノ四アリ

其一高麗村大字椿井ニアル大塚ト稱スルモノ

右ハ木津村今井良久ノ所藏ニ係ル嘉曆年中ノ原圖ヲ應永又ハ其後複製シ  
タリト云高麗寺ノ圖面中ニアリ

椿井村村誌ニ云村ノ東北宇大塚山山中ニアリ封土高五間周圍一町許墳上  
極及雜木ヲ生ス傳ヘ云藤原百川公ノ墓ナリト然レトモ致フ可ラス

按スルニ此圖等ハ恐クハ前圖ノ  
圖面ニヨリタルモノナルヘシ

其二相樂村大字吐師小字南中條及中ノ中條ニアル數個ノ古墳

右ハ山城志卷十二相樂墓後相樂墓ヲ記シタル條ニ俱ニ在吐師村今稱長塚  
墓群圓塚各三トアリ陵墓一隅抄ニ在相樂郡吐師村今稱長塚墓群圓塚三存  
ストアリ

吐師村村誌云丸山墓四一ハ村ノ西北宇南中條ニアリ或ハ長塚トモ云フ封  
土高三間周圍三十八間墓上小松ヲ生ス一ハ同上宇中ノ中條ニアリ已下皆  
同シ封土高二間周圍四十四間墓上小松ヲ生ス一ハ封土高八尺周圍三十七

間墓上楨及雜木ヲ生ス一ハ封土一間半周圍四十間三尺墓上小松ヲ生ストアリ

其三相樂村小字北庄白山山上ニアル古墳

右ハ睦川式胤氏所藏ノ圖ヲ安政四年ニ寫シタリト云フ元慶司家舊臣山下某ノ所藏スル山城各郡分割圖ノ内相樂郡ノ部ニ出ツ

又山州名跡志ニ云フトコロノ土師埴三町許ト云フニ正ク適合ス

右四ヶ所ハ何レモ多少據ル所アレハ座上輕々之カ眞偽ヲ判定スルコト難キヲ以テ明治二十七年五月二十日各實地ニ就キ之ヲ調査シ延喜式ニ載スル所ヲ以テ標準トシ考證スル所左ノ如シ

第一ノ椿井村ニアル大塚ハ直徑凡二十間餘周圍一町半許ノ圓形ヲ爲シタル山ニシテ南面ハ人家連屋ニ左右後面北東ハ自ラ堀ノ形ヲ爲シタリ字細田ト云フ

第一延喜式ニ云フ處ノ東西三町南北二町ト云フ兆域ニ適セサル事

第二兆域内ニ夫人ノ墳墓ト認ムヘキ處ナキ事

第三相樂墓ハ必ス相樂郷ニ在ルヘク思ハルニ此地ハ大相郷ナル事

右數項ノ疑フヘキ所アレハ此大塚ヲ公ノ墳墓ナリト云フハ信シ難シ

第二ノ吐師村ニ在ル長塚ハ其數七アリテ村民ハ七塚ト稱ス

第一數個ノ墳墓アルヲ以テ兆域判然シ難シト雖トモ強テ東西三町南北二町ノ兆域ヲ假定スルニ何レヨリスルモ兆域四個ノ墳墓ヲ包含ス公ノ墓内ニ夫人ノ墳墓アルヘキモ猶他ニ二個ノ墳墓アルハ疑フヘキ事

第二墳墓ハ前方後圓ノ形ヲ爲シタリ諸陵寮某ノ説ニ右ノ形式ハ公ヨリ以前ノ墳墓ニシテ公ノ時代ノ墳墓ハ圓形ナルヘキト云フ事

第三村民ハ古來野見宿禰ノ墳ナリト傳ル事

但此地ハ野見宿禰ノ末裔居住シテ土器ヲ作りタルヲ以テ土師ノ名アルハ疑フ可ラスト雖トモ此ノ墳墓ヲ宿禰ノ墓ト云ハ信シ難シ

右數項ノ疑フヘキ所アレハ此墳墓モ亦公ノ墓トハ信セラレズ

第三ノ相樂村白山山上ノ墳墓ハ南北ニ長キ三ノ頂キアル山ノ北方二ノ頂上ニアリテ本年發見シタルモノナリ

第一從來何等ノ記録傳説モナキ事

但此墳墓ハ漸ク本年發見シタルモノナレハ山州名跡志ニ云土師ノ埴三町許ト云ハ他ニ在リテ此所ヲ指シタルモノニアラサル事



第二南北ニ長キ山ナルヲ以テ延喜式ノ東西三町ト云兆域ニ適セサル事  
第三此墳墓ハ周圍ニ壘ヲ埋メタリ且ツ發見シタル土器ノ破片等ヲ以テ考フ  
ルニ百川公ヨリ前ノ時代ノ墳墓ナルヘキ事

第四ノ相樂村字北庄田間ニ在ル二個ノ墳墓ハ山田川ニ面シ大阪街道ヨリ北一  
町許ノ處ニアリ兩墓相距ルコト僅ニ十數間ヲ隔テ何レモ小竹ノミ存スレト  
モ往古ハ大樹繁茂シタル證ハ今猶近傍ノ田間ヨリ大木ノ朽根ヲ出スト云現  
今ハ周圍僅ニ數間ニ出テスト雖トモ此ノ耕田ノ間ニ在ルヲ以テ漸々縮少シ  
タルコトヲ知ルヘシ

第一相樂郡分割古圖ニ出タル事

第二山州名跡志ニ記スル處ノ土師ノ坤三町許ト云ニ適合スル事

第三兆域ハ南北ニ短ク東西ニ長カリシコトハ南ニ山田川アルヲ以テ知ルヘ  
シ山田川堤アリ墳墓中因テ延喜式ニ云處ノ兆域ニ符合スル事

第四此兆域内ニ兩個ノ墳墓アリテ而カモ其距離遠カラサル事

第五墳墓ノ形式ハ圓クシテ百川公ノ時代ニ適合スル事

第六此ノ墳墓ヲ中真トシテ東ノ方ノ字ヲ城下ト云後面北ノ方ヲ城東裏ト云

西ノ方ヲ城西ト稱ス然レトモ此地築城アリシコトヲ聞カス又若之ノアリ  
トセハ此墳墓ノ現存スル理ナシ然ルニ城下城裏城西等ノ字アルハ解シ難  
シ按スルニ始メ此墳墓ノ兆域ノ下ヲ兆域下ト云後面ヲ兆域裏西方ヲ兆域  
西ト稱シタルニ兆ノ字ヲ畧シテ只城下城裏城西等ト稱シ城ト城ト其字ノ  
甚相似タルヲ以テ中古迄ニ城ノ字ニ誤リ稱呼ヲモ轉スルニ至リタルモノ  
ナルヘシ稱呼ノ似タルヲ以テ後世他ノ文字ニ轉シタル例ハ揚川イヲ泉川ト  
スルノ類又字ノ相似タルヲ以テ稱呼マテ轉シタル例ハ拍手ト柏手ト誤リ  
隨テカシハテト稱スルノ類枚舉ニ違アラス

第七郷名ヲ附シタル神社ハ多クハ其郷内ニ在リ祝園神社ハ祝園郷ニ在リ宇  
治神社ハ宇治郡今ハ久世宇治郷ニ在ルカ如シ現ニ式内相樂神社モ此相樂  
郷内ニ在リテ此墳墓ト川ヲ隔テテ相對セリ依テ案スルニ相樂墓モ管ニ相  
樂郡内ニ在ルヲ以テノミナラス相樂郡相樂郷ニ在ルヲ以テ名付タルモノ  
ナルヘキ事

和名抄ニ相樂郷相樂郡今云相樂村在木津村西南半里許和州郡山道西也ト  
アリ

案スルニ同村ノ古圖ニ此墳墓ヲ去ルコト西ノ方凡二町許ノ處ニ一軒ノ家  
 屋ヲ圍シタリ存セシ恰モ墳墓兆域ノ西ニ隣ルカ如シ是レ古ヘ附セラレタ  
 ル守戸一煙トアルモノ、子孫ノ後世迄存在シタルニハアラサルカ此近傍  
 敷町内ハ皆田地ナルニ唯此一家墳墓ノ側ニ存スルモノ縁故アルモノ、如  
 抑千有餘年前ノ墳墓ヲ今日ニ確定スルハ御陵ト雖トモ難事ナルニ公ノ墳墓ノ  
 如キハ僅ニ延喜式山城志山州名跡志陵墓一隅抄及二個ノ圖面ニ出ルノ外絶テ  
 記載シタルモノナケレハ甚困難タリ然レトモ假令書籍ノ記シタルモノアルモ  
 延喜式載スル所ノ事項ニ適合セザレハ取ル可ラス又延喜式ニ適合スルモ他ニ  
 書籍傳説ノ據ルヘキモノナケレハ畢竟臆測ニ外ナラサルハ是亦決シテ斷定ス  
 ヘカラス今此墳墓タルヤ既ニ古圖ニ記スルアリ山州名跡志ノ云處ニ適當シ且  
 延喜式載スル所ノ兆域等ニ符合スルノミナラス傍數項ノ證スヘキモノアレハ  
 正シク公及夫人ノ墳墓ト確定シテ疑ナカルヘシ

明治二十七年五月二十七日

半井眞澄 考證

凡此ノ如クナル考定ハ一ノ確證ヲ要ス然ルニ公ノ墓ニ於テ現今在ル所ノ圖面ハ  
 皆後世製作セシモノニシテ杜撰少カラス其他古文書ノ證スヘキナク且ツ名跡志  
 ニ記スル所ハ今不詳トアリテ其所在ヲ記セス其右此所當國坤ノ宛竟也土師村坤  
 三町許ニ當國ト大和ノ界アリ云々トアルハ山城國ノ坤隅ヲ示スニ過キス又諸朝  
 陵ニ於テモ未ダ確定ノモノヲ發見セストノ回答アリタリ然レトモ相樂郡ニ在ル  
 コトハ確實ニシテ今ノ土師村ハ相樂村ノ内ニ屬スレハ蓋シ此近傍ニ公ノ墓アル  
 ナ知ルヘシ此回ヲ以テ之ヲ修理スルハ最好機會失フヘカラサルヲ以テ有志者ニ  
 於テハ必ス其一所ニ定メコトヲ欲シ百方搜索考定セントスルモ到底確證アル  
 モノハ得ヘカラサルヲ以テ先ツ衆人ノ是ナルヘシト證スルモノヲ以テ其墓ト定  
 メ之ヲ修理スヘシト決シ更ニ委員ヲ出張セシメ有志者ト俱ニ實地ヲ檢シ其請願  
 ナ許可シ之ニ補助スルコトトシ社寺名勝保存費ヨリ金貳百圓ヲ補助スルコトト  
 ナレリ其後近衛公爵モ其祖族ナルヲ以テ特ニ實地ニ出張アリテ其舉ヲ贊セラレ  
 タリ有志者ニ於テハ其修理設計案ニヨリ其兆域地百二十四坪五合ヲ收買シ周圍  
 十五間半高一尺ノ石垣ヲ築キ木柵ヲ設ケ塚上盛土ヲナシ小松ヲ栽シ南面鳥居ヲ  
 建テ修理全ク成レリ二十八年十二月十二日其奉告祭ヲ行ヒ本部書記官紀念祭委

員 雅井小三郎參向、郡長松野新九郎有志者集合シテ盛ニ祭典ヲ行ヒタリ

### 田村將軍墓修理ノ件

坂上田村將軍ノ墓ハ宇治郡山科村宇栗栖野ニアリ弘仁二年五月二十三日將軍粟田別業ニ薨ス年五十四從二位ヲ贈リ山城國宇治郡粟栖村ノ水陸田山林三町ヲ賜ヒテ墓地ト爲シ其屍ヲ坑中ニ立テシメ平安京ニ向ヒ之ヲ葬リ甲冑劍矛弓箭櫛鹽ヲ併セテ之ヲ瘞シ官使其事ヲ監護ス將軍塚トハ即チ是ナリ此後國家大事アレハ其塚鳴動スト云フ將軍出征スレハ必ス詣テ、之ニ祈リ古來著名ノ墳墓ナリシモ近世太々荒頽シ知ル人モ亦稀ナルヲ以テ此紀念祭ニ際シ郡內有志ハ其修理表章ヲ謀リ委員ニ左右田實英內海忠兵衛中村利右衛門吉井省三山本佐兵衛等ヲ撰舉シ其費用ノ補助ヲ市參事會ニ出願セリ因テ紀念祭委員雅井小三郎貞廣太郎等實地ヲ檢分シ參事會ニテ之ヲ可決シ金貳百圓ヲ補助セリ又有志者ハ宮內省ニ特別下賜金ノ事ヲ出願セリ滋賀縣知事大越亨ハ公ノ苗裔ナルヲ以テ其間ニ斡旋シ特ニ金五拾圓ヲ下賜ラシ有志者ハ其墓ノ四周ニ地面ニ反三獻餘ヲ買ヒ官有地第三種ニ編入ヲ願ヒタリ墓ハ西ニ面シ平安城ニ向ヒ隆然タル小阜ヲナシ其上ニ古

木叢生シ四周ニ石柵ヲ設ケタリ此石柵ハ慶應年中奥州一ノ關城主田村氏ノ建ツル所ナリト云フ今回四方ニ兆域ヲ廣メ之ヲ平坦ニシ土壘ヲ築キ樹木ヲ併植シ道路ヲ通シ大ニ其觀ヲ改メタリ又有志者ハ碑ヲ建テ之ヲ表セントシ其作文ヲ府知事ニ伏願シ明治二十八年五月八日建碑式ヲ執行シ之ヲ落セリ其碑文ニ曰ク

### 坂上將軍墓碑

自古創業及中興之君不獨天寶叙明能統御內外必有一二名臣近贊廟謨遠當邊防者焉可美異乎建臣之於 神武帝鎌足比羅夫之於 天智帝蓋是也 桓武帝之遷都于平安也和氣公以三朝老臣翼贊鴻業坂上將軍繼先世武勳鎮壓蝦夷使朝廷無東顧之憂是以延曆雄圖至今歷歷接睫而和氣公先薨將軍久負禦侮之任策瞻澤志波之二城以大關地于東陲其功最顯矣及薨 嵯峨帝宸悼不視事一日贈從二位賜賻無數且以山城國宇治郡粟栖村水陸田山林三町爲墓地使其屍立棺中向平安城而葬之後大將每出征先詣而禱焉其爲國家所重如此歲月屢遷僅存孤墳維歲乙未某月京都市修遷都一千百年祭典於是宇治郡民追懷將軍之勳業廣與同志謀修墳域及神道以便展拜事 聞宮內省賜金若干郡民感奮欲并勒石傳之後世來請于文子深嘉其舉不辭而紀其概畧銘曰

出征東夷 夷酋就戮 入衛近畿 姦匪僞服 勳業千年 赫赫史傳  
爰表墳塋 維石巍然  
大勳位晃親王篆額

京都府知事正四位勳三等渡邊千秋撰

明治二十八年五月

京都府屬正八位殿本範治謹書

### 西天王塚 姬塚保存ノ事

平安神宮博覽會敷地ノ中ニ西天王塚鶴塚姫塚ノ三墳アリ西天王塚ハ字西天王ノ南端元小泉新兵衛所有地ノ中ニアリ其坪數十一坪五合二勺ニテ大極殿東步廊ノ内ニ屬シ鶴塚ハ字西正地ニアリ西正地ハ蓋シ最勝寺ニテ其寺ノアリシ舊址ナルヘシ元錦光山宗兵衛所有地ノ中ニテ坪數二十四坪九合姫塚ハ蓋シ秘塚ナルヘシ元廣道ノ西ニ條新道ノ北ニアリ元黒谷超覺院ノ所有地ニテ坪數五坪九合アリ鶴塚ノ東南ニアリ博覽會東工藝館ノ敷地ニ當リ俱ニ雍州府志山城名勝志山州名跡志等ニ記スル所ノ古塚ニシテ舊來考說アソト未タ確定セズ然ソトモ數百年來ノ古墳ヲ夷滅スルハ甚タ惜ムヘキナリ以テ明治二十六年十月六日土方宮内大臣臨檢

ノ時千田府知事内貴委員長協賛會幹事等之ヲ案内シテ實地ヲ踏査セシカ委員確井小三郎ヨリ其保存ヲ要スル事實ヲ述ヘ希望ヲ陳シタリ諸氏皆之ヲ可トシ市參事會協賛會ヨリ農商務省諸陵寮ニ交渉シ調査ノ上陵墓參考地トシテ保存スル事ニ決シ之ヲ爲メ平安神宮及ヒ博覽會工藝館トモ十間西ニ寄セテ之ヲ建築シ三塚トモ木柵ヲ設ケ盛土ヲ爲シ之ヲ保存スルコトトナソリ此ニ因テ慶流橋モ十間西ニ寄セテ之ヲ架スルコトトナソリ

第十章

社寺及民間紀念祭ニ對スル記事

紀念祭ハ千歳一遇ノ盛事ナルヲ以テ京都各社寺ニ於テハ各之ニ對スル計畫ヲ爲スヘキヲ以テ各社司各宗管長互刺住持ヲ召集シ市參事會ヨリ其旨ヲ諭シ獎勵スル所アリ各社寺ニ於テモ皆其意ヲ得テ競ヒテ之ヲ準備シナシ紀念祭事務所ニ報告セリ其事ノ種類ハ大畧紀念祭奉告祭桓武天皇法要戰勝祝賀祭戰死者吊祭本尊開帳寶物社殿拜觀等ニシテ或ハ數ヶ月或ハ數日又ハ數回其大小長短各同シカラス皆特別ニ莊嚴ヲ盡シ大ニ陳列スル所アリ有名ナル美術工藝品ヲ各社寺一時ニ縱覽セシムルヲ以テ實ニ古今ノ希觀ナリ此時適々清明佳節紅紺綠醉ノ天ナルヲ以テ四方ノ遊客爭ヒテ京都ニ集リ是ヨリ數日間ハ實ニ非常ノ熱鬧ヲ極メタリ四月三十日紀念祭ハ延期セシモ社寺ハ依然之ヲ行ヒ以テ六七月ニ及ヘリ今一詳細記載スヘカラサルヲ以テ一覽表ヲ作り之ヲ左ニ掲ク

四月ヨリ七月マテ社寺計畫事項

社寺	月	日	事	社寺	月	日	事
白峯宮	四月	一日	什寶縱覽	熊野神社	四月	一日	能樂

妙心寺	清水寺	二尊院	相國寺	清凉寺	延曆寺	大德寺	宗忠神社	萬福寺	大報恩寺	方廣寺	立本寺	妙法院	勸修寺	金戒光明寺
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
各種法要祈禱	法要 三日間	法樂內拜 百二十日間	寶物展覽 三十日間	法要寶物展覽 十四日間	宸影奉揚 百日間	寶物展覽 九十一日間	說教展覽守札授與	法要什寶展覽	祈禱修行	法樂內拜 百二十日間	開扉 百日間	殿舍什寶展覽 百二十日間	大曼荼羅修行	繪畫展覽
今宮神社	立本寺	天龍寺	金蓮寺	平等寺	善峯寺	妙傳寺	御香宮	鹿苑寺	大覺寺	寶御祖神社	勝持寺	眞如堂	眞別雷神社	東寺
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
臨時法要祈禱	會寶物展覽 十日間	紀念祭其他追悼法 會寶物展覽 八日間	法要 三日間	大法會祈禱 三日間	開扉法要 十四日間	七日間法會音樂寶 物展覽說教 十四日間	寶物展覽 十日間	開扉 五十日間	殿舍寶物展覽 五十日間	奉告祭	法要寶物展覽 十四日間	開扉 五十日間	奉告祭	寶物展覽 五十五日間

建勸神社	本隆寺	南禪寺	壬生寺	禪林寺	清淨華院	佛光寺	知恩院	誓願寺	知恩寺	本願寺	金藏寺	男山八幡宮	大谷派本願寺	高臺寺
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
奉告祭	法會	桓武天皇遷都 紀念祭	物展覽狂言 二十日間 大念佛寶	法會 五日間	法要雅兒音樂 七日間	法會 二日間	法會 七日間	大法要音樂說教 五日間	法要什寶展覽 十日間	七日間法會 三十日間什寶展覽	法會三日間	奉告祭	本堂遷佛供養 寶物展覽三十日間	大般若修行三日間 寶物展覽三十日間
梅宮神社	廣隆寺	稻荷神社	初東師神社	本滿寺	頂妙寺	上醍醐寺	要法寺	八坂神社	本法寺	建仁寺	上御靈神社	神宮教本部	金地院	青蓮院
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
奉告祭	法會 三日間	奉告祭	祭典神輿渡御	法會 三日間	法會 三日間	三昧法會	法會 三日間	奉告祭	紀念祭執行 三日間	寶物展覽 二十一日間	神寶陳列狂言	大祝祭	東照宮祭	得度會

下段展覧會

上

〇百二五

北野神社	五月二十日	奉告祭	許波多神社	六月五日	芳若祭展覽
眞幡寸神社	同	祭典寶物展覽	貴船神社	六月六日	奉告祭
大原野神社	五月廿五日	奉告祭	護王神社	六月十日	奉告祭
下御靈神社	六月一日	臨時祭	豐國神社	六月二十日	奉告祭
惠美須神社	六月三日	寶物展覽	梨木神社	六月廿五日	祭典

其後紀念祭ヲ十月二十二日ニ執行スル事ニ決セシカハ更ニ社寺宮司管長等ヲ獎  
 屬シ秋季ニ於テ再ヒ之ヲ行ハシム其社寺及ヒ舉行事目ハ左表ノ如シ

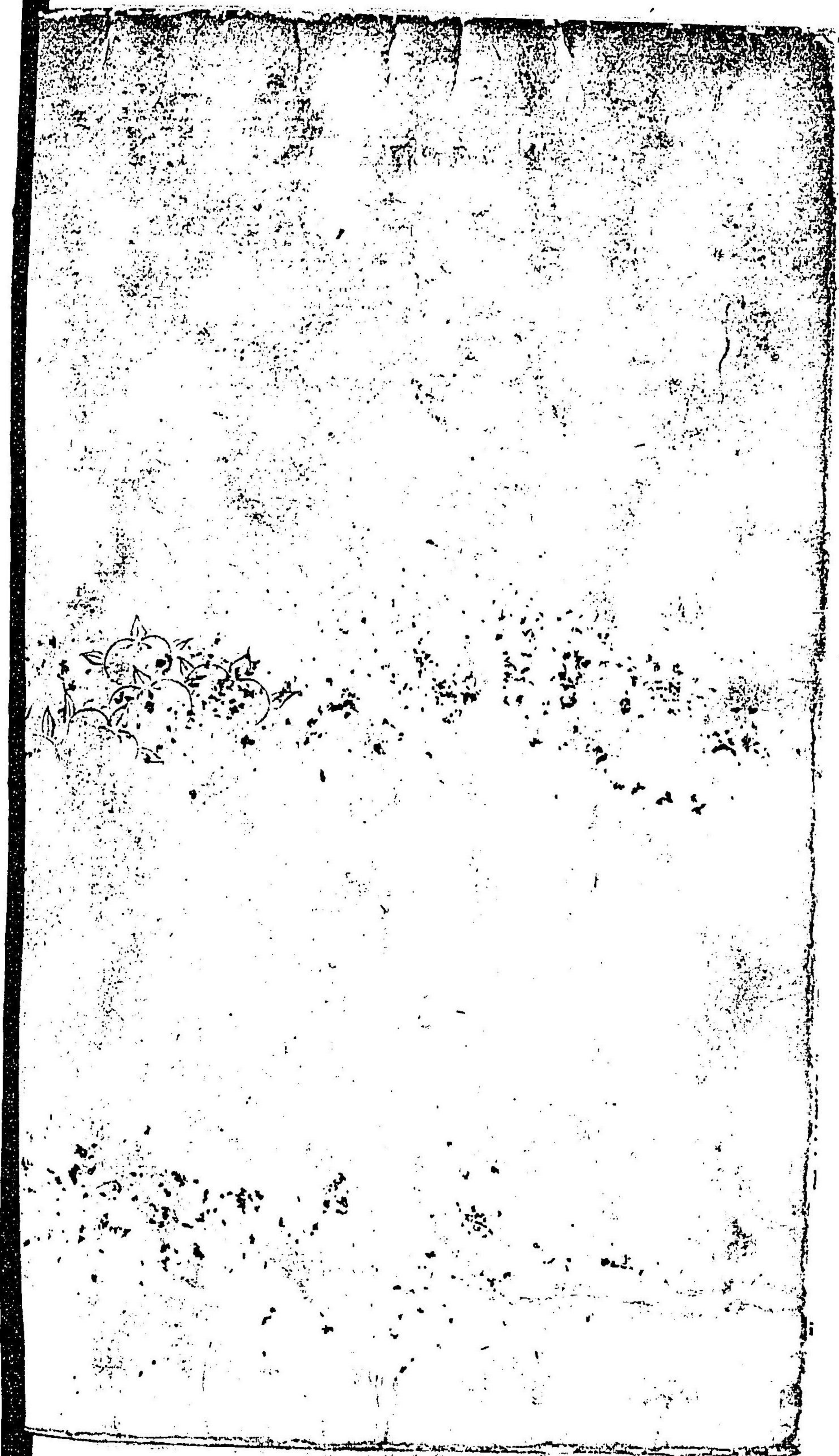
賀御祖神社	自十一月十五日	神物拜觀	妙法院	自十一月十五日	殿舎拜觀
賀別雷神社	自十一月十五日	祭典執行	蓮華王院	自十一月十五日	內陣拜觀
八坂神社	自十一月廿二日	能樂	鹿苑寺	自十一月十五日	什器展覽
知恩院	自十一月十五日	寶物展覽	東寺	自十一月十五日	寶物展覽
南禪寺	自十一月四日	龜山天皇大法會	法輪寺	自十一月十五日	本尊開帳 什寶展覽

佛光寺	自十月十八日	戰死各盟俱會所 法會執行	萬福寺	自十一月十五日	寶物展覽
高臺寺	自十一月十五日	寶物展覽	眞如堂	自十一月十五日	寶物展覽
永觀堂	自十一月十五日	紀念法要	金戒光明寺	自十月十五日	十夜大法會
大德寺	自十一月廿三日	開祖國師年忌		自十月十五日	萬人講追善 大施餓鬼 海陸戰死者 吊慰法要
大覺寺	自十一月十五日	殿舎寶物拜觀		自十月十六日	寶物展覽
建仁寺	自十一月十五日	寶物展覽	妙心寺	自十一月十五日	法會執行
東本願寺	自十一月廿九日	征清戰死大法會	仁和寺	自十一月十五日	什寶展覽
神護寺	自十一月十五日	殿舎寶物拜觀	西本願寺	自十一月十九日	征清戰死大法會
關原寺	自十一月十五日	寶物展覽			
壬生寺	自十月二十八日	什寶假面展覽			

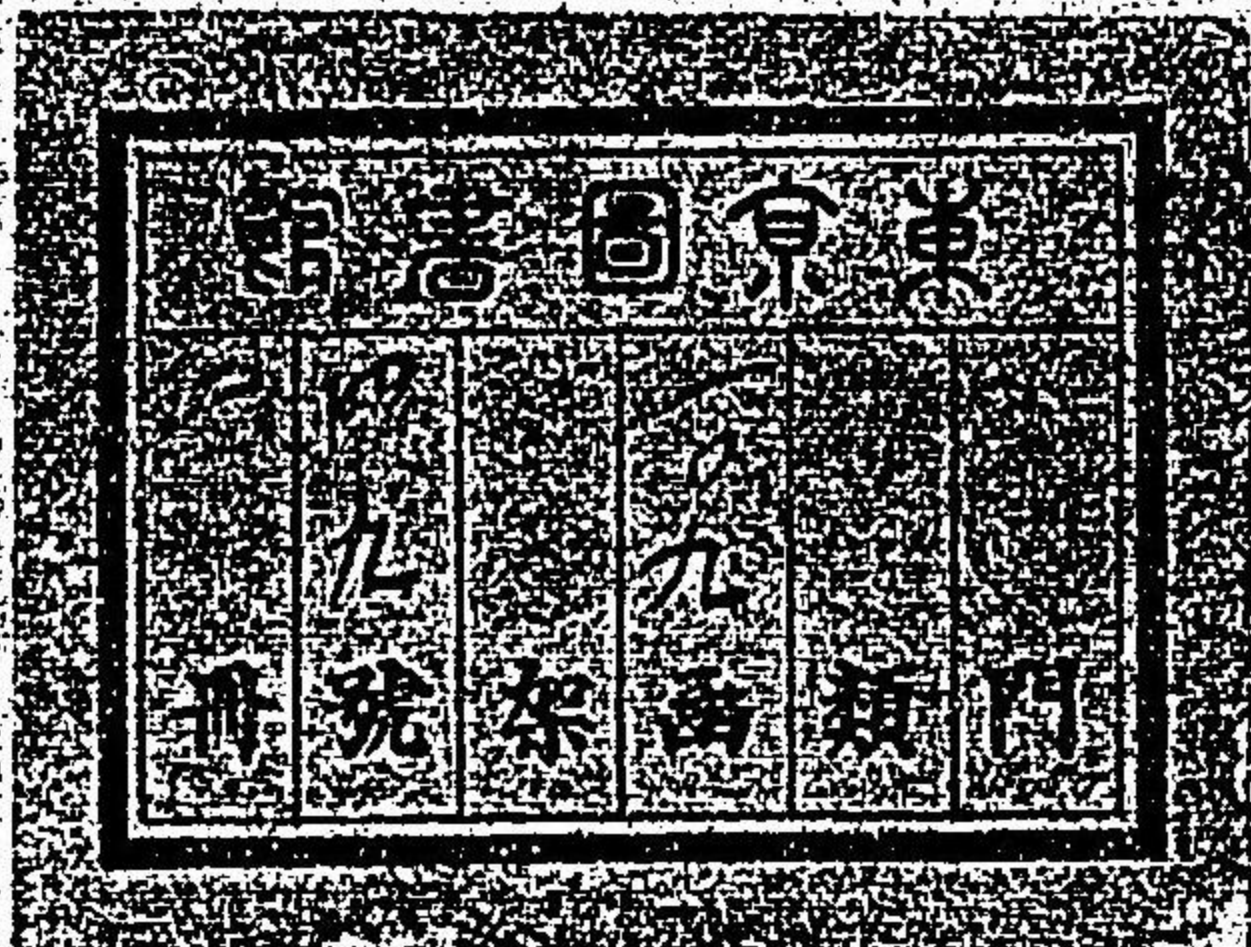
此時秋陽正ニ妍楓錦黃花ノ佳候平生且ツ遊人ノ多キニ稀世ノ盛典行ハルノヨ  
 ナラス社寺ノ之ニ對シテ此事ヲ行ヒシヲ以テ遊人絡繹其熱鬧マタ夏季ニ願ラサ  
 リシナリ







109  
合2  
49



平安遷都紀念祭紀事

卷上

025635-001-8

109-49

平安遷都紀念祭紀事

京都市参事会

和1冊(上124丁)  
M29

ADC-3136

